

三菱レイヨングループ CSR報告書

MITSUBISHI RAYON GROUP CSR REPORT

2008

 三菱レイヨン
MITSUBISHI RAYON CO.,LTD.

経営理念

三菱レイヨングループは『最高の質』を追求し、
人々の豊かな未来に貢献します。

Best Quality for a Better Life

経営の基本姿勢

- ① CSR経営
- ② 人を活かす経営
- ③ 事業ポートフォリオ経営



編集方針

対象範囲

三菱レイヨングループ

対象期間

2007年度(原則として2007年4月から2008年3月末まで)

発行目的

三菱レイヨングループは、1998年度に環境・安全活動報告書を発行して以降、毎年、当社グループの取り組みについて社会とのかかわりという視点からも紹介しています。2007年度には当社グループのCSR活動を統括するCSR委員会を立ち上げ、本報告書の名称もCSR報告書に改称しました。本報告書は、各ステークホルダーに対して当社グループのCSR活動を包括的にご紹介するとともに、当社グループ従業員へのメッセージとして編集しました。

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」

GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006(第3版)」

次回発行予定

2009年8月

CONTENTS

経営理念	1
編集方針・目次	2
トップメッセージ	3
三菱レイヨングループの製品紹介	5
三菱レイヨングループの概要	7
三菱レイヨングループのCSR	9
特集 CSR活動の推進に向けた重点課題	11
1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します	14
コーポレートガバナンス	15
コンプライアンス	16
リスクマネジメント	17
2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します	18
マネジメントシステム	19
安全・防災への取り組み	21
三菱レイヨングループ環境負荷全体像	23
環境負荷低減への取り組み	25
地球温暖化防止への取り組み	27
環境データ・資料編	29
3 私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します	32
最高の商品をお届けするために	33
お客様とのかかわり	34
環境にやさしい製品・技術	35
4 私たちは社会との共生に努めます	36
地域社会とのかかわり	37
株主・投資家とのかかわり	39
5 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします	40
従業員とのかかわり	41
GRIガイドライン対照表	44
第三者意見	45
第三者意見をいただいて／編集後記	46

より詳しい情報はホームページをご覧ください
ホームページアドレス
<http://www.mrc.co.jp>
この報告書に関するお問い合わせ先
広報・IR室
TEL. 03-5495-3100
FAX. 03-5495-3184

※本文中、特に社名の記載がないものは三菱レイヨン(株)です。
※()内は三菱レイヨングループの商標です。

トップメッセージ

社会に信頼される企業であるために ステークホルダーの皆様との一体感を持ちながら CSR経営を推進します



CSR活動の取り組み方を再構築

三菱レイヨングループは、「『最高の質』を追求し、人々の豊かな未来に貢献します」を経営理念に掲げています。この意味は、第一義的には、真にお客様に満足していただける優れた商品とサービスの提供に努めることです。しかし、企業の行動に対する世の中の見方が変化している昨今、企業統治、コンプライアンス、企業倫理、あるいは地域・社会や従業員とのかかわりなど、CSR視点からも「最高の質」を目指しています。

当社グループはこれまでさまざまなCSR活動に取り組んできましたが、2007年6月、CSR憲章を定め、従来、個々に活動していた企業倫理委員会、リスク管理委員会、情報セキュリティ委員会、安全環境品質委員会を、私自身が委員長を務めるCSR委員会のもとに統合し、理念を共有した総合的な取り組みが進めやすい体制としました。同時に、1998年度より発行した「環境・安全活動報告書」は、「環境・社会報告書」(2004～2007年度)を経て、2008年度からは「CSR報告書」と改称いたしました。

国内海外を問わず経営の基本は「人」

CSR経営の土台となるのは社員です。2008年度からスタートした中期経営計画「グローバルUS→2010」*1でもこの点を重視し「人を活かす経営」を挙げています。

社長就任以来2年間続けている「移動社長室」では、製造や研究などの現場に出向き、社員との直接対話を続けています。この対話活動は、社員の考えを知るとともに、経営理念の理解を深める上でも非常に効果があり、「人を活かす経営」につながると確信しています。

同時に人事制度では、退職した人を再雇用する「ウェルカムバック制度」、随時採用や外国籍社員の採用など、多様な角度から「人財」を求めるとともに、仕事と家庭の両立支援に努め、活力ある環境づくりに注力しています。

あなたの身近にある三菱レイヨングループ製品

家庭、レジャー、街、オフィスにいたる暮らしのあらゆるシーンで人々の豊かで安全な生活を支えています。

レジャーで

テニスラケット
炭素繊維 (パイロフィル)
テニスラケットの他にも、自転車のフレームなど身近なスポーツ・レジャー分野で使われています。

スポーツウェア
動く繊維 (ベントクール)
吸湿により瞬時に糸が伸長し、乾燥によって捲縮する「動く繊維」。吸湿性・速乾性に優れています。

ゴルフシャフト
炭素繊維 (パイロフィル)
当社製ゴルフシャフト (ディアマナ) や (バサラ) は世界のトッププレイヤーをはじめ多くのゴルフプレイヤーに愛されています。

車載ネットワーク
プラスチック光ファイバー (エスカ)
軽量で柔軟なアクリル樹脂製光ファイバーは重量の軽減に役立ち、車載ネットワーク部品として注目されています。

テールランプ
アクリル樹脂成形材料 (アクリベツト)
高い透明性に加え、光による劣化が少なく傷つきにくい性質を持つアクリル樹脂は、自動車部品をはじめ光学製品などにも使用されています。

オフィスで

携帯電話
アクリル樹脂板 (アクリライト)
透明で明るく傷が付きにくい表面硬化アクリル樹脂板 (アクリライト) MRI は、通常の使用環境では傷が付きにくく、携帯電話の前面板に使用されています。

パソコン
プリズムシート (ダイヤアート)
当社独自の精密成形技術によるプリズム設計、シート化技術により、パソコン画面の輝度向上と薄型化を可能にします。

複合機
ロッドレンズアレイ (ロッドスコープ)
当社の精密成形技術と光学設計技術を駆使し、カラー特性をガラス製並みに向上させた読み取り部材 (ロッドスコープ) は、複合印刷機向けに普及しています。

足下の課題に向き合う中で将来を展望

当社グループは、第5次中期経営計画「US→2007」に続き、2008年度から2010年度までの第6次中期経営計画「グローバルUS→2010」を策定しました。2007年後半からの米国経済の減速や円高、急激な原燃料高などにより厳しい時代を迎えているため、まず徹底して足下を固めることを優先しなくてはなりません。一方では「成長へのニューデザイン」を基本コンセプトに据え、2015年近傍に売上高1兆円を目指して取り組んでいきます。

当社グループが成長しながら持続的に存続していくために、常に短期的テーマと中長期テーマの両方に取り組み、子どもの代、孫の代に、地球はどうなっているのかということを考えながら行動していきます。



高い目標を定めて環境対策に取り組む時代

洞爺湖サミットでは、2050年までにCO₂排出量を半減することが主要議題の一つとなりましたが、これは私たち三菱レイヨングループにとっても大きなテーマです。

当社グループでは、社内における省エネルギーやCO₂削減、3R活動^{※2}などへの取り組みを積極的に行っていますが、それだけでは不十分です。製品をライフサイクルアセスメントの視点で捉える時代が来たと感じています。

常に高い目標を定め、製品を造り、市場に送り出し、お客様に使っていただき、最終的に廃棄する過程で、どれくらいエネルギー使用量を抑え、どのようなリサイクルが可能か等、トータルで見たときに地球環境に役立つ新しい製品の創出に向けて、研究開発のスピードを速めていく必要があると考えています。

幸い当社グループには、軽量化に寄与する炭素繊維、廃水の再生・再利用化及び海水の淡水化に役立つ中空糸膜製品をはじめ、地球環境に貢献できる多くの製品・技術があります。

三菱レイヨングループが、誠実に、良い製品を造り、良い人間関係をつくっていると認めていただけること、それがCSRにつながっていくと考えています。地球環境を含め、「人々の豊かな未来に貢献」できるものづくりに、今後一層まい進し、社会に信頼される三菱レイヨングループを構築していきます。

本報告書がステークホルダーの皆様との一体感を持ちながらCSR経営を進める三菱レイヨングループの取り組みをご理解いただく一助になるよう願っています。今後の活動に向け、忌憚のないご意見・ご提案をいただければ幸いです。

2008年9月
取締役社長 鎌原 正直

鎌原 正直

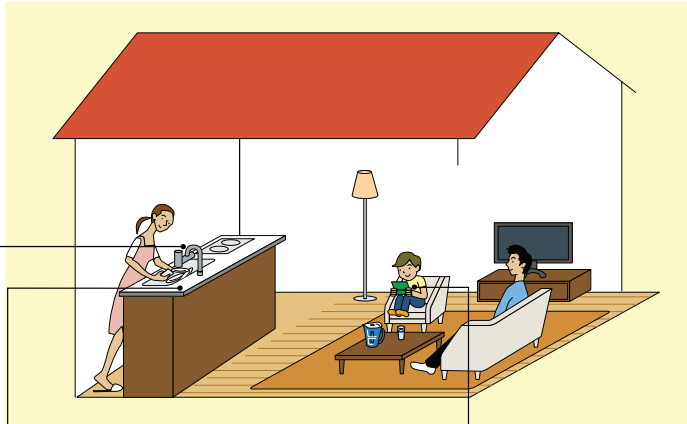
※1 US
独自性と優位性を併せ持った事業 Uniqueness Specialties を意味する。

※2 3R
廃棄物処理とリサイクルにおける優先順位を表す頭文字をとった造語。
①発生抑制 (Reduce : リデュース)
②再 使 用 (Reuse : リユース)
③再生利用 (Recycle : リサイクル)

家庭で

浄水器

中空糸膜を使用した家庭用浄水器(クリンスイ)
当社が製造するポリエチレン製中空糸膜は、溶剤を用いない溶融延伸法で製造されており、飲用水にも安心して使用していただいています。蛇口直結型、アンダーシンク型、ピッチャー型とさまざまなタイプを取り揃えています。



キッチンカウンター

アクリル人工大理石 デュボン™ コーリアン®*
アクリル樹脂に高品質の鉱物を混ぜて機能を強化した人工大理石。人工大理石でありながら、あたたかさ、柔らかさ、深みのある質感で、キッチンカウンターや洗面台に使用されています。

*米国デュボン社の登録商標



ゲーム機

アクリル樹脂板(アクリライト)
透明で明るく傷がつきにくい表面硬化アクリル樹脂板(アクリライト)MRは、ゲーム機などの小型液晶前面保護板をはじめ、TVやPCモニターの前面板などに使用されています。

水処理浄水施設

中空糸膜フィルター(ステラポー)
浄水施設では、河川水、工業用水、地下水などを原水とした水の清浄化を行います。中空糸膜の高集積により小さな容積で大容量の浄水処理が行えます。

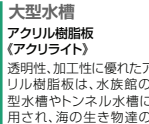


看板

アクリル樹脂板(アクリライト)
太陽光や風雨、雪などによる劣化が少なく、耐候性に優れたアクリル樹脂板は屋外の看板に広く使用されています。

船底防汚塗料

アクリル系塗料(ダイヤナール)
世界的に規制されている有機錳(すず)物質を一切含まず、海洋汚染の影響の少ない非錳(すず)系船底塗料です。



ディスプレイ

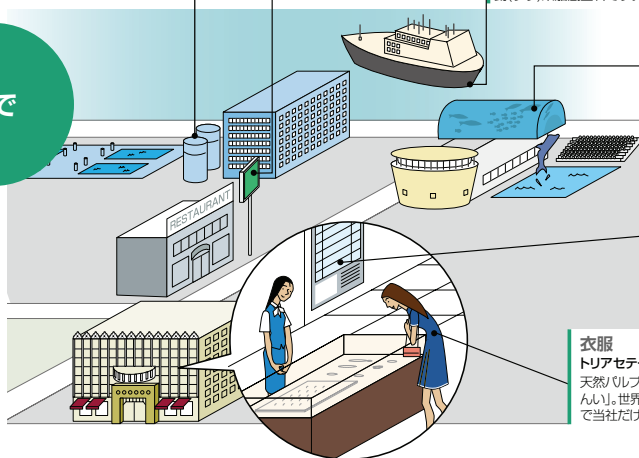
電飾看板(イルミライト)
普及が進むLED光源向けに設計した、明るさが均一かつ高輝度な拡散板です。光源から拡散板までの距離が近くなっても輝度むらが発生しにくく、ディスプレイの薄型化が可能です。

衣服

トリアセテート繊維(ソアロン)

天然リブから生まれたバイオマス素材「樹のせみん」。世界の高級婦人服ブランドに愛され、世界で当社だけが製造している希少な素材です。

街で



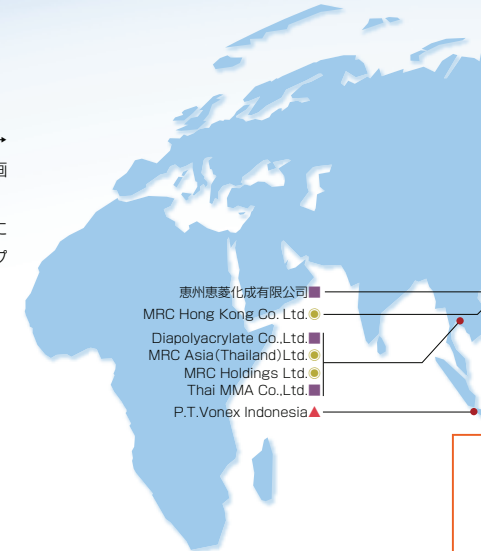
三菱レイヨングループの概要

私たち三菱レイヨングループは、独自性、優位性、社会性を備えた製品やサービスの提供はもちろん、内部統制やCSRの視点における「最高の質」を追求し、企業価値の向上を図っていきます。

当社グループでは、2007年度までの第5次中期経営計画「US*→2007」に続き、2008年度から2010年度までの第6次中期経営計画「グローバルUS→2010」を策定しました。

世界的に広がる環境問題、CSR(企業の社会的責任)意識の高まりにも機敏に対応しながら、US事業群をグローバルに展開する企業グループを目指します。

*US: 独自性と優位性を併せ持った事業 Uniqueness Specialties を意味する。

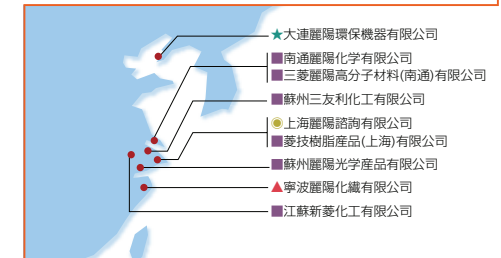


- 惠州惠菱化成有限公司
- MRC Hong Kong Co., Ltd.
- Diapolyacrylate Co., Ltd.
- MRC Asia (Thailand) Ltd.
- MRC Holdings Ltd.
- Thai MMA Co., Ltd.
- P.T. Vonex Indonesia

会社概要

2008年3月31日現在

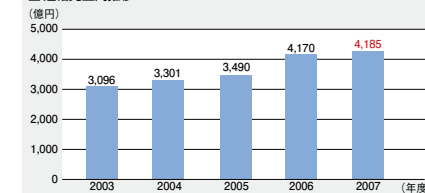
商号	三菱レイヨン株式会社(MITSUBISHI RAYON CO.,LTD.)
本社住所	東京都港区港南一丁目6番41号
創業	1933年8月31日
資本金	532億29百万円
連結子会社	51社(国内30、海外21)
持分法適用関連会社	19社(国内14、海外5)
事業所	大竹事業所/豊橋事業所/富山事業所/横浜事業所/東京技術・情報センター
研究所	中央技術研究所/横浜技術研究所/豊橋技術研究所/生産技術研究所
支店等	大阪支店/名古屋支店/北陸出張所
従業員数	連結: 7,699人



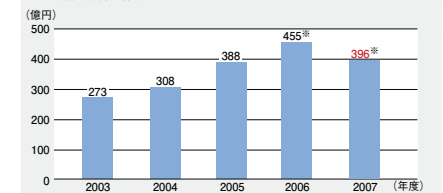
2007年度業績(連結)

三菱レイヨングループの2007年度の実績は、高騰した原燃料価格の製品価格への転嫁の不足や、期後半での急激な円高等の影響が極めて大きかったこともあり、連結売上高は4,185億円(前期比0.4%増)、連結営業利益*は396億円(前期比13.0%減)になりました。2008年度からスタートした第6次中期経営計画では、現下の激しい経営環境に対して足下を固めつつ、「成長へのニューデザイン」を基本コンセプトに据え、コア事業であるMMAチェーン(メタクリル酸メチル系事業体)、ANチェーン(アクリロニトリル系事業体)の強化及び次世代コア事業の育成に重点をおいた事業活動を展開していきます。

■ 連結売上高推移



■ 連結営業利益推移



*退職給付会計の数理計算差異償却前の実質ベース

三菱レイヨングループのCSR

三菱レイヨングループの考えるCSR

三菱レイヨングループは企業としての社会的責任を果たすことを経営の基本姿勢の第一としています。グループ一丸となってCSRに取り組むため、2007年6月に共通の理念としてCSR憲章を制定しました。

企業の健全性を高めるためには、従業員一人ひとりがCSRを意識して日々の業務に取り組み、行動に反映することが必要不可欠です。CSR憲章は企業としてのCSRの姿勢を示すだけでなく、全従業員の行動の基盤としても位置づけています。

CSRは企業活動のあらゆる側面にかかわっています。法令遵守、安全・環境、商品・サービス、ステークホルダーとの関係におけるさまざまな側面からCSR活動を推進することにより、社会の持続的発展に貢献することが私たちの社会的責任であると考えています。

CSR推進体制

CSR委員会の設置

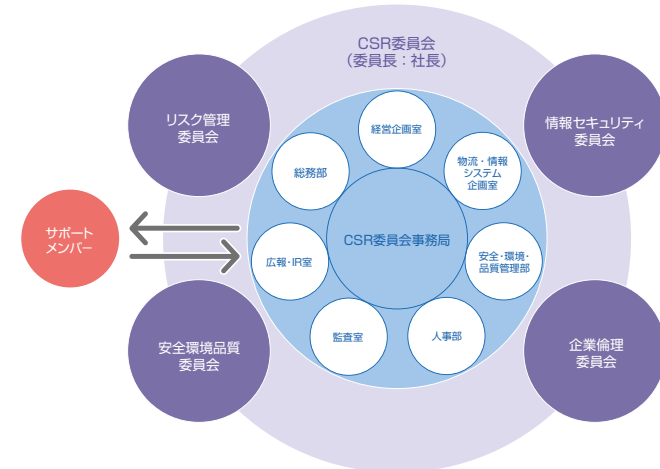
三菱レイヨングループにおけるCSR活動を推進するために、2007年4月にCSR委員会を設置しました。CSR委員会は、事業におけるコンプライアンスを横断的に管轄していく組織として、従来から活動していたリスク管理委員会、安全環境品質委員会、企業倫理委員会、情報セキュリティ委員会を統括し、グループ全体のCSR活動の方向性を決定する機関です。

CSR委員会の運営を補佐するために、「CSR委員会事務局」を設置しました。社会の要請に柔軟に対応し、さまざまな側面から委員会の活動を推進するために、メンバーは下図の部署から構成しています。さらに各事業ブロックからCSRサポートメンバーを任命し、事業所、国内外のグループ会社とも連携を取りながら、全社的な活動を発掘・推進していきます。

【CSR憲章】

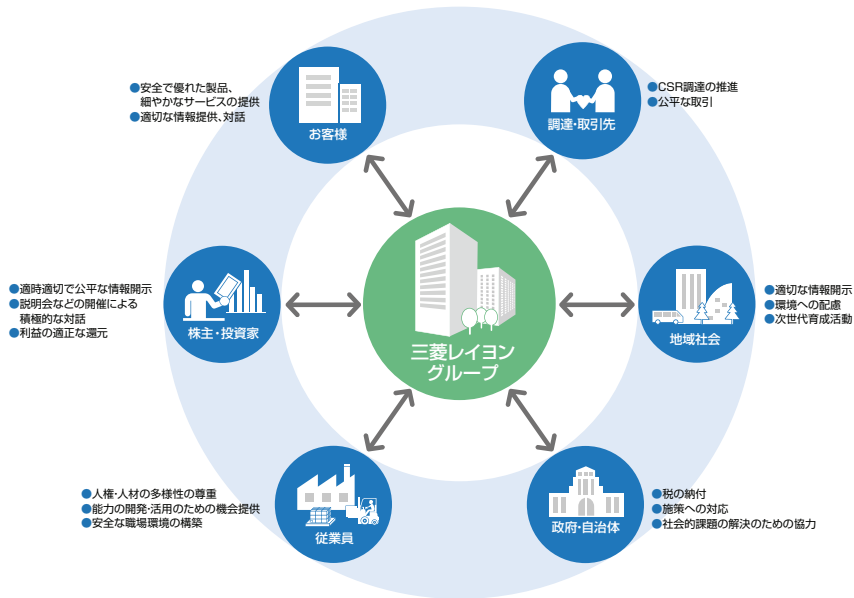
- ① 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します
- ② 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します
- ③ 私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します
- ④ 私たちは社会との共生に努めます
- ⑤ 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします

(2007年6月制定)



三菱レイオングループと主なステークホルダー

CSRに取り組む上で、ステークホルダーと信頼関係を築くことは何よりも重要です。ステークホルダーとの対話を重ねることにより、私たちがいま社会から何を求められているのかを知り、社会への責任を果たしていきます。



2007年度 CSR委員会重点課題	
海外リスクマネジメントの強化	・中国コーポレート機能強化への取り組み(→詳細はP.11)
全社安全活動の推進	・安全大会の実施、各職制の一斉巡回など(→詳細はP.12)
2007年度 その他の活動	
CSR調達方針の制定	・健全な取引関係の構築の取り組み(→詳細はP.33)

2008年度 CSR委員会重点課題	
海外リスクマネジメントの強化(2007年度から継続)	・中国グループ会社への監査・指導の継続
安全活動の推進(2007年度から継続)	・2007年度の重点安全活動の継続 ・国内外のグループ会社及び協力企業の安全管理の徹底
危機管理体制の整備	・危機対策フローチャートを元にした各部署・各グループ会社の手順書作成の徹底 ・危機対応訓練の計画と実施
ステークホルダーとの共生	・従業員へのCSR教育 ・CSR調達：主要取引先への説明と調査
地球環境保全	・地球温暖化防止対策の推進 ・化学物質排出削減

CSR活動の推進に向けた重点課題 1

海外リスクマネジメントの強化について
—中国のコンプライアンス—

日本、中国、アメリカ、韓国、タイ、インドネシア。世界各地の製造・販売拠点の連携を図りながら、世界市場に向けてグローバルな事業運営を進める中で、コーポレートガバナンスの強化、リスクマネジメントの強化は、経営の健全性確保の観点からますます重要になっています。とりわけ、急速な発展を遂げている中国においては、その対応を急ぐ必要があります。

そこで、2007年度CSR委員会重点課題の「海外リスクマネジメントの強化」への取り組みとして、製造拠点9社、販売会社2社が集中する中国におけるコーポレート機能の強化(製造拠点運営の指導強化、コンプライアンスの徹底)を目標として掲げ、以下の施策を行いました。

2007年度の取り組み

中国コーポレート機能強化への取り組み

1 上海に「安環品・コンプライアンス推進室」設置

中国生産拠点の事業活動にかかわるリスク管理、ガバナンス機能強化のために、2007年7月にMRC上海(上海麗陽諮詢)に「安環品・コンプライアンス推進室」を設置しました。

中国現地にコーポレート機能を担当する部署を設置することにより、中国グループ会社のリスク管理や事業活動の諸問題について、統一した対応を進めます。

2 中国グループ会社へのリスク監査の実施、リスク管理体制作り推進

急速な経済発展が進む中国では、法律や制度の整備が急ピッチで進み、企業を取り巻く環境が目まぐるしく変化しています。中国グループ会社では、重大リスクの見落としや誤認の危険性を排除し、より客観的なリスク評価を行うために、右記の施策を実施しました。

1. 外部専門家を活用したリスク監査の実施

- ① 事業運営全般に関するリスク監査を実施し、網羅的・客観的なリスク評価を行いました。
- ② 安全・環境に関する法律・制度への適合状況について詳細なチェックを行いました。

2. 社内専門家を活用した設備安全チェックの実施

- ① 日本国内の基幹工場の知見を最大限に活かす設備安全調査体制をつくり、チェックを実施しました。
- ② 安全性評価～対策の仕組みづくりを行い、安全操業・安定生産の基盤づくりを進めました。



現地安全担当者の教育・研修



外部専門家によるリスク監査

Step 1

【体制づくり】
CSR委員会の設置
CSR憲章の制定
CSR調達方針の制定
危機管理体制の整備

Step 2

【CSR意識の浸透】
海外リスクマネジメントの強化
安全活動の推進
従業員へのCSR教育
地球温暖化防止対策の推進

Step 3

【CSR活動の推進】
次世代への社会貢献
地球環境保全への取り組みのさらなる推進
CSR調達の実践・拡大

CSR活動の推進に向けた重点課題 2

「全社安全活動の推進
—休業災害ゼロに向けて—」

CSR委員会重点課題である「全社安全活動の推進」について、2007年度に実施した4つの活動を紹介します。

“コミュニケーション”をキーワードとして、経営メンバーを含めた全員が相互に話し合い、全社で安全の価値観を共有し、意識を高めて休業災害ゼロを目指すことに主眼を置いて活動しました。

CSR活動の推進に向けた重点課題 3

「環境への取り組み
—地球温暖化対策—」

三菱レイヨングループは経営理念として「『最高の質』を追求し、人々の豊かな未来に貢献します。(—Best Quality for a Better Life—)」を掲げています。地球温暖化対策は地球規模の重要な課題であるとの認識のもと、当社グループも社会の持続的発展には不可欠の課題として、積極的に取り組んでいます。

三菱レイヨングループが排出する主な温室効果ガスは二酸化炭素(CO₂)であり、現有設備の省エネルギー化、エネルギー効率の良い設備への転換、CO₂の発生量の少ない燃料への転換に積極的に取り組んでいます。もちろん、今後造る設備は、温室効果ガスを極力抑えたものとしていきます。

ここでは三菱レイヨンの地球温暖化対策の取り組み状況について紹介します。

2007年度の取り組み

全社安全活動

1 | 安全大会の実施 経営陣が安全の重要性を直接語りかける

2007年7月3日に大竹事業所、豊橋事業所、富山事業所、横浜事業所、東京技術・情報センターの5つの事業所に社長以下経営陣がそれぞれ訪れ、安全に対する経営の考え方、従業員への要望を語りました。各事業所の安全大会では、

- ① 経営メンバーからの安全メッセージ
- ② 事業所長挨拶
- ③ ユニオン支部執行委員長挨拶
- ④ 安全唱和

その他各事業所独自に外部講師による講演会、グループ活動発表会、経営者と各課の安全担当者の対話など趣向をこらした行事を行いました。



安全大会

2 | 各職制の一斉巡回 毎日一斉に職場を巡回し、作業員との対話を図る。

(全社統一巡回時間：13時～13時半)

各職制はこれまでも職場巡回をしていましたが、2007年度より、職制も作業員も互いに安全を意識し、コミュニケーションを深める場とする事を目的に全社で巡回時間を統一する活動を開始しました。もちろん、この時間は会議も行いません。職制が決まった時間に来るので、会話しやすい雰囲気ができ、安全の対話が弾んでいます。



一斉巡回

3 | 各職場安全の日設定

各職場で過去に発生した事故、労働災害を風化させないためと、改めて過去から学ぶことを目的に、各職場毎にその発生日を安全の日として設定しました。

4 | 12月を安全強化月間とする ひと月を通して各種の活動を行う

「安全強化月間」を設けた趣旨は、12月は、

- ① 近年の重大労災が12月に発生している。
- ② 年末年始の体転並びに工事がある。
- ③ 年度末にかけて、慌しくなる。

という時期にあたり、気を引き締め、無事故・無災害で乗り切ろうとするものです。

各事業所で1ヵ月にわたり、各種の行事を実施しました。残念ながら、この期間内に協力企業で2件の不休労災が発生しましたが、重大な事故・労災の発生はありませんでした。

行事としては、管理者による安全ビラの配布、安全大会、講演会、ポスターのぼりの掲示などを実施しました。



事業所正門前での安全の呼びかけ

2007年度の取り組み

地球温暖化対策への取り組み

1 | 省エネルギー活動

- ① 外部のコンサルタントを活用し、新たな視点で省エネルギー項目を発掘し、実施する。
- ② 自らの目でもう一度工場を見直し、省エネルギー項目を発掘し、実施する。という2つの側面から進めています。

具体的な視点 省エネルギー項目を発掘し、地道に積み上げる

- ① 蒸気関係：廃熱の回収、電気への転換、使用しない配管の撤去、配管の断熱不良箇所の修理
- ② 電気関係：照明の適正化、空調温度の適正化、インバーター化
- ③ エア関係：漏れの修理、低圧供給への転換

2 | 燃料転換

- ① 重油や石炭からLNG等のCO₂発生量の少ない燃料への転換
- ② バイオマス燃料の混焼

各製造拠点で上記のような項目の検討を進めており、全社的には地球温暖化防止対策会議を開催して情報交換や進捗状況のチェックをしています。

現在計画中の活動で2012年までにCO₂約20万トン相当分を削減しようとしています。さらに新たな削減項目を発掘し、地球温暖化防止に貢献していきます。

省エネルギーの取り組み事例

■ 蒸気加熱式給湯システム



■ ヒートポンプ式蓄熱給湯システム



蒸気加熱式給湯システムから、夜間電力を利用したヒートポンプ式蓄熱給湯システムに変更したことにより、CO₂の排出を抑えました。

Best Quality for a Better Life
経営理念の実現



1

私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します

企業が健全な事業活動を行うためには、法と高い企業倫理に従って行動しなければなりません。私たちは、法令を遵守し、企業倫理憲章を定め、公平正大な自由競争に基づく事業活動を行います。

- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- リスクマネジメント

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します

コーポレートガバナンス

透明で公正な経営を行っていきけるよう、組織整備を図り、各組織の活動を横断的に統括しています。

基本的な考え方

三菱レイヨングループは、「企業の社会的責任とは、法と高い企業倫理に従って公正な事業活動を展開することである」との基本認識に立ち、コーポレートガバナンスの充実に取り組んでいます。これを実現していくために次の体制を敷いています。

①的確な意思決定・効率的な業務執行を行うための

事業運営体制

2007年4月より「事業部門」を廃止し、事業運営組織をフラット化(全ての事業部が社長直轄)

②適正な監視・監督の実現のための体制

内部統制、リスクマネジメント体制を整備

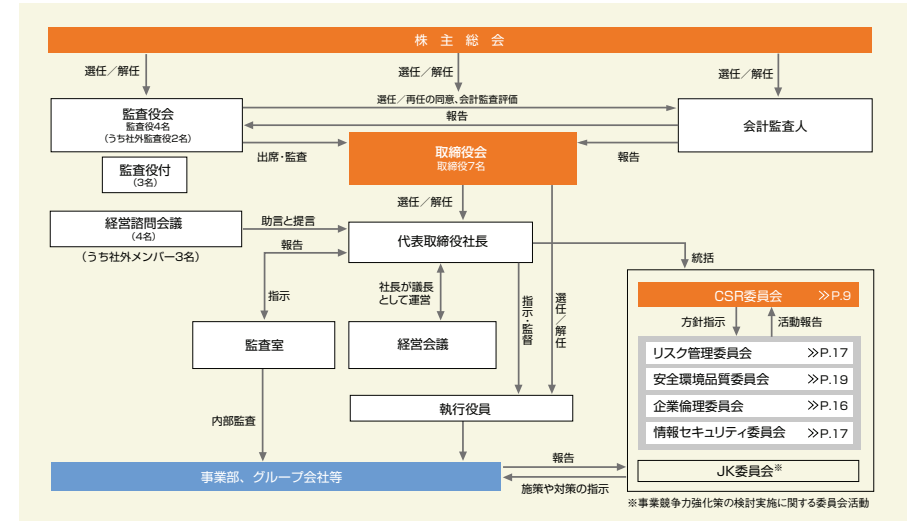
監査体制

三菱レイヨングループでは監査役、会計監査人による監査とともに、内部監査を実施する組織として社長直轄の監査室を設置しています。監査役、会計監査人及び監査室は相互の連携を高め、業務運営における改善、向上に努めています。

内部統制

三菱レイヨングループは、取締役会で決定した「内部統制基本方針」に基づき、内部統制システムの整備に取り組んでいます。2007年度は「リスクマネジメント体制」の整備(詳細はP.17)と金融商品取引法により2008年4月にスタートする「日本版SOX法」への対応を特に重点的に行いました。

■コーポレートガバナンス体制図(2008年6月27日現在)



●取締役会(2007年度:24回開催)
三菱レイヨングループの経営に関する重要事項を決定するとともに取締役の職務執行の監督にあたります。

●監査役会(2007年度:12回開催)
監査役会監査に関する重要事項について各監査役から報告を受け協議を行っています。監査役は取締役会への出席、取締役や事業部長層からの業務状況の報告を通じて、取締役の職務の執行を監査する体制を取っています。

●経営会議(原則週1回)
社長が議長を務め、三菱レイヨングループの業務執行に関する重要事項を審議し、意思決定の迅速化と業務執行の効率化を図っています。

●経営諮問会議(原則年3回)
三菱レイヨングループの経営の透明性、公正性を確保することを目的とし、社内の見方に偏らない視点で、中長期的な経営の方向性、社長の進退・後継者の選出・報酬について、社長に対し提言・助言を行い、社長はこれを尊重して意思決定を行っています。

2 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します

3 私たちは健全な経営への積極的な取り組みを推進します

4 私たちは社会との共生に努めます

5 私たちは人ひとりの成長を大切にします

コンプライアンス

私たちは法令を遵守し、企業倫理憲章に基づき行動します。

コンプライアンスの推進

三菱レイヨングループは、企業倫理の全うは企業存立の必須条件であるとの考えのもとに、社長を委員長とする企業倫理委員会を設置し、年2回定例開催しています。委員会では、当社グループのコンプライアンス・企業倫理に関する課題、教育・研修の実施状況等について報告するとともに、CSR委員会で決定された方針に基づき、コンプライアンス・企業倫理の浸透・定着のための施策を審議し、決定しています。委員会で決定された施策については、関係部署の協力を得てグループ内に展開し、実施結果を次回の企業倫理委員会にて報告しています。

2007年度は、コンプライアンス定着策の一つとして、過去の独占禁止法違反事件発生への反省から、「独占禁止法違反(カルテル)防止指針」の遵守状況の確認を行いました。本指針は、独占禁止法の遵守と内部統制の視点から策定したもので、同業者との会合、複数人による競争条件の決定、記録化など独占禁止法にかかわる具体的な事項を定めています。

【企業倫理憲章】

私たち三菱レイヨングループは、社会に有用な企業グループとして存続するために、次の9原則を当社グループ従業員の行動指針としています。

- | 9原則 | |
|-----|------------------------------|
| 1 | 「最高の質」(ベストクオリティ)を目指す商品・サービス |
| 2 | ステークホルダー(Stakeholder)との関係の重視 |
| 3 | 公平正大で、透明性のある自由な競争 |
| 4 | 個人の尊厳の重視 |
| 5 | 適切な情報の開示と秘密情報・個人情報の管理 |
| 6 | 国際協調と異文化の尊重 |
| 7 | 安全・環境問題への積極的な対処 |
| 8 | 社会的正義の重視 |
| 9 | 本憲章の周知・徹底 |

(1998年制定)

コンプライアンス教育の徹底

コンプライアンスの徹底を図るため、2007年度は、定例で行っているコンプライアンス全般に関する階層別教育の他、人権・労働、環境・資源、業務犯罪・消費者公正競争・公務員倫理、インサイダー取引、個人情報保護、知的財産など、会社員としてコンプライアンス上身につけておくべき法令等に関するテキストを各部に配布し、各職場でのコンプライアンスの理解、徹底を促進するとともに、社外講師を招いて講演会を実施しました。また、テキストの理解度を確認できるeラーニングを導入し、理解度を確認できるようにしました。

その他、「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理上の輸出規制遵守のため、輸出を行うグループ会社を対象に安全保障輸出管理に関する教育を実施し、一層の徹底を図りました。



従業員に配布したテキスト (発刊 第一法規)

コンプライアンス相談窓口

「コンプライアンス相談窓口等に関する規則」を定め、グループ内の法令違反や企業倫理違反に関する相談、通報を受け付けるため、社内窓口2つ(監査室長、監査役)及び社外窓口1つ(弁護士)の計3つの相談窓口を設けています。

相談は、当社グループの社員だけでなく、派遣社員や取引先からも受け付けており、実名、匿名いずれでも可能です。実名による相談の場合も、本人が希望する場合には匿名扱いにします。なお、実名の相談者には相談事項に関する調査結果を必ず報告します。

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します。

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは最高の質を目指し、商品・サービスを提供します。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは人びとの暮らしを大切にします。

リスクマネジメント

三菱レイヨングループの持続的発展のため、リスクマネジメントを一層強化していきます。

リスク管理の基本的な考え方

三菱レイヨングループが社会の要請に応え、持続的に発展していくためには、事業を取り巻く内外のさまざまな重要リスクを確実に捉え、それを管理する仕組み、すなわち「リスク管理体制」を整備することが重要であるとの認識のもと、リスク管理については以下の取り組みを行っています。

1 リスク管理委員会の設置

2007年10月に三菱レイヨングループにおけるリスク管理体制の強化を目的とした「リスク管理委員会」を設置しました。同委員会は方針を決定し、三菱レイヨングループのリスク管理活動の基本プロセスを統括していきます。また万が一の有事の際には、同委員会のもとに「危機対策本部」を設置し、指揮命令系統の一元化と迅速な方針の決定により、損害の拡大抑止と早急な復旧に取り組みます。業務執行にかかわる重要リスクについての管理方針・管理方法、並びに想定される事例毎の危機管理対応方法を「リスク管理規則」に定め、この規則に沿った運営を行っています。

2 2007年度のリスク管理活動(右図参照)

各事業組織別に重要リスクを洗い出し、これらを分析評価した結果、三菱レイヨングループでは全社レベルでの対策を行う「全社共通重要リスク」を特定しました。そしてこれらの重要リスクに対しては、日常管理の基本的事項として「リスク標準対策」を策定し、これに従ったリスク管理活動を実践しています。

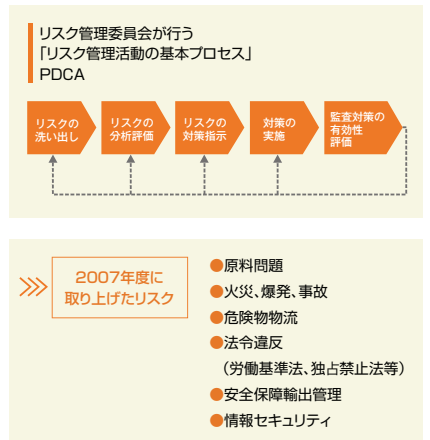
2007年度は右記のリスクを重点的に取り上げ、担当部署による法令に関する説明会、教育の実施、及びリスク管理委員会が各部署の「標準対策実施状況」を検証し、PDCAを回しています。

情報セキュリティ

三菱レイヨングループは、「情報セキュリティポリシー」を2004年度に制定し、「情報セキュリティ委員会」を中心に情報セキュリティ強化の活動を行っています。2007年度の活動は、全社共通リスク管理活動と連携して情報セキュリティ対策状況の点検を行い、情報セキュリティ強化策の定着及び従業員教育の徹底を行いました。また、三菱レイヨングループ統一の入退室管理システム(PIAS: Physical Security Integrated Admission System)を新たに導入し、協力会社を含む全ての従業者へICカード*(PIASカード)を配付しています。このPIASカードを用いて、施設や設備機器などフィジカル面からのセキュリティ強化も推進していきます。



PIASカード(サンプル)



* ICカード(アイシーカード)
情報(データ)の記録や演算をするためICチップ(集積回路)を組み込んだカードをいう。普及しているICカードにはJR発行の「Suica(スイカ)」「ICOCA(イコカ)」などがある。



2

私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

私たちは安全・環境への取り組みが企業存立と事業活動にとって最重要課題と認識し、安全に関する法令、環境保護に関する法令を遵守すると共に、安全と環境に配慮した事業活動を行います。

- マネジメントシステム
- 安全・防災への取り組み
- 三菱レイオングループ環境負荷全体像
- 環境負荷低減への取り組み
- 地球温暖化防止への取り組み
- 環境データ・資料編

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

マネジメントシステム

“レスポンシブル・ケア”*の理念のもと、環境、安全、品質に配慮した事業活動を行っています。

安全・環境・品質に関する基本方針

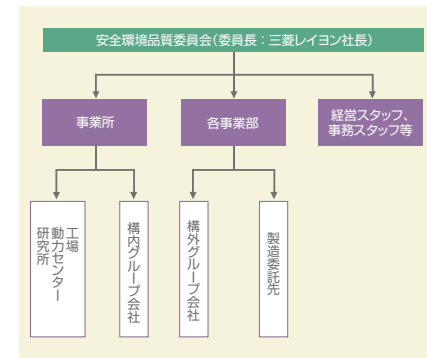
- 安全・環境は企業存立の必須要件として、すべてに優先して行動する。
- 顧客が満足し、安心し、信頼する製品を提供する。
(1998年制定)

安全・環境行動指針

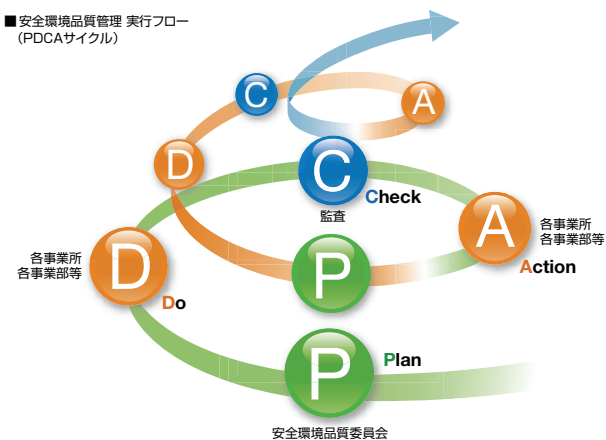
- ① 法規を遵守し、必要ある時は法規以上の措置をとる。
- ② すべての事故は防ぎうることをそれぞれの責任として対応をとる。
- ③ 自己責任・自主的管理を主体とした行動をとる。
- ④ 環境に配慮した事業活動に努める。
- ⑤ 製品のすべてのライフサイクルで、安全への配慮と環境負荷の低減に努める。
- ⑥ 教育により意識を高め、その成果を職場に活かす。
- ⑦ 社会とのコミュニケーションを図り、透明性を上げる。
- ⑧ 科学的、技術的手法を駆使し、継続的段階的に改善する。
(1998年制定、2001年一部改訂)

安全・環境・品質管理推進体制

三菱レイオングループの安全管理、環境管理、品質管理に関する基本的な方針・施策等を決定する安全環境品質委員会(委員長:三菱レイオン社長)のもと、トップダウン型の管理体制を敷いています。安全環境品質委員会は、2007年4月に設置したCSR委員会に属する委員会で、社会的責任活動の一翼を担っています。



■ 安全環境品質管理 実行フロー (PDCAサイクル)



*レスポンシブル・ケア
化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るまで自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動。

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理基準に基づき行動します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは顧客の質を自指す商品サービスを提供します

4 私たちは社会との共生に努めます

5 私たちは人ひとりの従業員を大切にします

安全・防災への取り組み

「安全3原則」に基づいて、従業員や地域の方々の安全と健康を確保するために、安全管理や防災活動に取り組んでいます。

2007年度 安全・環境・品質の監査

監査の種類	監査の種類	対象
総合監査	安全環境品質委員会による経営の監査	MRC*
部門監査	総合監査を補完する監査で、サンプリングした部署の詳細な監査	MRC*
グループ会社監査	安全環境品質委員会の承認に基づき、グループ経営の一環として実施する監査	グループ会社
特別監査	重大事故・労働災害が発生した場合に、安全環境品質委員会委員長の指示により実施する監査	三菱レイヨングループ
PL・品質監査	安全環境品質委員会の承認に基づき、営業から製造まで一貫通貫で実施する監査	MRC*製品群
臨時監査	他に分類されない臨時に行う監査	三菱レイヨングループ
製造委託先品質監査	MRC*製品の製造を委託している会社に対して行う品質監査	製造委託先

*対象範囲についてはP.29「環境関連データの集計対象」参照

2007年度の監査実施一覧表

監査	部署・会社	監査分野
総合監査	大竹事業所 豊橋事業所 富山事業所 横浜事業所	安全及び環境
部門監査	大竹事業所(5部署) 富山事業所(3部署) 豊橋事業所(3部署) 横浜事業所(2部署)	安全または環境
グループ会社監査	海外グループ会社(5社) 国内グループ会社(2社)	安全環境品質
特別監査	国内事業所(1部署) 海外グループ会社(2社)	重大事故・労働災害
PL・品質監査	クリンスイ アクリル繊維 炭素繊維 化成品	PL・品質
製造委託先品質監査	製造委託先(6社)	品質

2007年度の監査結果

監査	報告
総合監査	事業所全体の安全と環境に関する活動の実施状況を監査しました。各事業所とも活動の成果が出てきているので、さらに努力を継続する事を指示しました。
部門監査	各部署の安全活動、環境活動の実施状況を監査しました。各部署とも多くの活動を実施し、管理レベルの向上が見られました。リスクの高い項目を優先的に実施していくよう指示しました。
グループ会社監査	安全管理、環境管理、並びに品質管理の体制の整備状況と管理活動状況を監査しました。各社ともに体系付けられた管理体制に沿って活動していることを確認しました。一つ一つの活動でしっかりとPDCAを回すことを依頼しました。
特別監査	2007年2月の労働災害、2007年11月の漏洩事故に対し、原因究明、再発防止対策の実施状況を監査しました。2005年10月火災事故後の運転再開前に安全を確認する監査を実施しました。各部署・グループ会社とも対策がとられていましたが、追加施策を指示・依頼しました。
PL・品質監査	製品の開発部署、製造部署、販売部署のそれぞれの品質保証の実施状況を監査しました。体系付けられた品質保証体制のもとで業務が進められていることを確認しましたが、部署間でのコミュニケーションをさらに緊密にすることを依頼しました。
製造委託先品質監査	製造を委託している製品の品質管理が確実に行われていることを監査しました。品質管理業務の一部について、改善を依頼しました。

環境関連データの集計対象

製造加工を主体業務とする会社のみを対象としています。対象となる会社、データはP.29をご覧ください。本文中の表記については①～④をご覧ください。

- ①MRCグループ：②～④を加えたもの
- ②MRC：三菱レイヨン及び三菱レイヨン事業所内のグループ会社
- ③国内グループ：①以外の国内の連結子会社
- ④海外グループ：海外の連結子会社

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは品質の向上を目指し、商品サービスの完全提供します

4 私たちは社会との共生を目指します

5 私たちは人々の心と暮らしを大切にします

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは品質の向上を目指し、商品サービスの完全提供します

4 私たちは社会との共生を目指します

5 私たちは人々の心と暮らしを大切にします

安全管理に関する2007年度施策

2007年度は、第5次中期経営計画の最終年度として、休業災害ゼロ、産業事故撲滅を目指し、新たな活動を加えて実施しました。

新たな活動は特集に記載したように、「コミュニケーション」をキーワードとした取り組みです。三菱レイヨンの事業所のみならず、グループ会社でも同様の活動を推進しました。この活動は緒についたばかりで、すぐに効果が出るものではありません。地道に根を太く強くさせるべく、今後も取り組んでいきます。

>>詳細 P.12

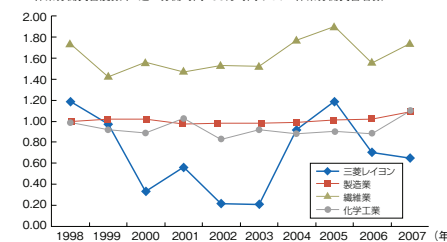
労働災害低減に向けて

労働災害

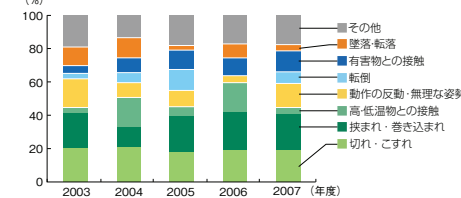
2007年度は休業4日以上の重篤な労働災害は発生しませんでした。休業1日以上の休業労働災害発生率は昨年とほぼ同じレベルにとどまりました。その主な原因は、挟まれ、巻き込まれ、有害物との接触などでした。

■休業労働災害発生率*推移(休業1日以上)

*休業労働災害発生率：延べ労働時間100万時間あたりの休業労働災害者数



■労働災害発生原因(MRCグループ*) (含む協力企業)



*データの対象範囲についてはP.29「環境関連データの集計対象」参照

安全3原則

●安全3原則

- 決めたことは守る
- 安全優先の行動をとる
- 管理者は安全確保の責務を果たす

●Three Principles of Safety

- Honor your commitments
- Make safety your top priority in your conduct
- Managers shall be responsible for securing safety

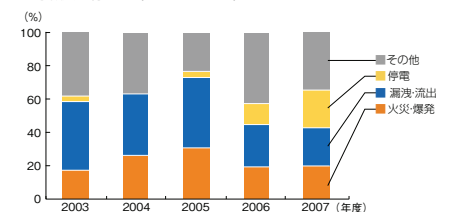
●关于安全的基本三原则

- 遵守已定事项
- 采取安全优先的行动
- 管理者履行确保安全的职责

事故

2007年度のMRCグループの事故類型は停電が増えたことが特徴でした。

■事故類型別グラフ(MRCグループ*)



労働衛生

メンタルヘルスケアの推進

メンタルヘルスについては、2002年度に「三菱レイヨンメンタルヘルスケア指針」を制定し、従業員対象に冊子の配布やセミナーを実施するなど、心の健康の保持・増進に積極的に取り組んでいます。2006年度から導入した専門家によるカウンセリングシステムは、2008年4月よりインターネットでも相談が可能となり、海外勤務者にもさらに利用しやすくなりました。また心身の病気や怪我でやむを得ず休業した場合、復職・復帰時に試験出社や短時間勤務を可能とする新しい制度を設け、長期療養者がスムーズに職場復帰できるよう支援しています。

▶▶詳細 P.43

GHS*への対応

三菱レイヨングループでは、製造する化学物質のラベル表示及びMSDS(製品安全データシート)のGHS対応版への改訂を進めるとともに、原材料等で使用する化学物質については、GHS対応版のMSDSの入手に努めています。GHSは世界各国の法律に取り入れられるため、アジア、欧州、米国等海外の法制化動向を収集し、適切な対応に努めています。

災害防止対策

物流安全

三菱レイヨングループでは、輸送中の事故・災害を未然に防止し、万が一、事故が発生した場合に迅速かつ適切な対応が取れるよう、物流事業者に対する教育を実施しています。特に化学品など危険有害性が大きい製品については、危険有害性や事故発生時の対応方法を記載したイエローカードの常時携帯を運転手に義務付けています。

防災活動

三菱レイヨングループでは、化学品を中心としたさまざまな製品を取り扱っています。災害を発生させないために、従業員に対する安全教育や設備の点検・整備を実施しています。そして、万が一の災害に備え、防災訓練を実施しています。また、近隣企業や地域での合同防災訓練にも参加しています。

*GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals
「化学物質の分類及び表示に関する世界調和システム」
化学物質の危険有害性の分類と表示を世界的に統一する国際活動。

高生産量(High Production Volume) 既存化学物質安全点検プログラム

このプログラムは、生産量が多く、安全性情報が少ない既存化学物質について、安全性情報を収集し、評価するための国際的な活動です。1999年以降、三菱レイヨングループは、国際的なプログラム(ICCA-イニシアチブ)で20物質(8物質終了、1物質辞退)、国内のプログラム(Japan チャレンジプログラム)で2物質に参加しています。今後も安全性情報の収集に努めていきます。

Voice

製品を安全にお届けするために



MMA管理部*
物流グループ
石井 一裕

危険物等の貯蔵や運送における物流事故は、火災・爆発・漏洩等の恐れがあり周辺住民に不安を与えます。

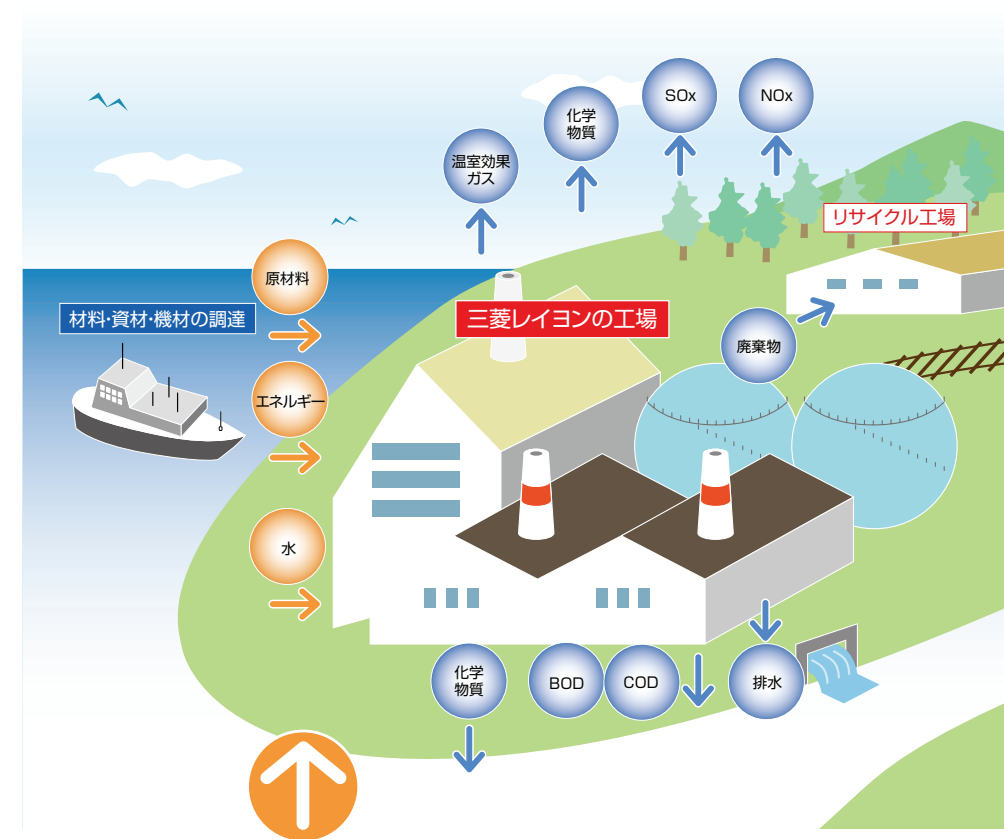
当社は荷主の責任としてこうした事故を発生させないよう、また発生したときには迅速な対応が取れるよう物流協力会社に対し、定期的に安全会議を開催し、輸送物質の特性、事故事例研究などを行っています。またMSDSやイエローカードの配布、緊急連絡体制の見直しを行っています。特に陸上で大量の危険物を運送するタンクローリーについては、運送会社に出向き直接ドライバーに安全教育を行っています。

これに加え2007年度より、こうした会社に対しては管理体制、社内教育状況、法的な違反状態がないかなどの安全監査を開始しました。

(*所属は2008年3月末現在)

三菱レイヨングループ環境負荷全体像

三菱レイヨングループは製品のライフサイクル全体にわたる環境への影響を把握し、その低減に努めています。



INPUT		ENVIRONMENTAL IMPACT	
エネルギー使用量 (原油換算)		水使用量	
MRC	372千kℓ	MRC	118百万㎡
国内グループ	29千kℓ	国内グループ	11百万㎡
海外グループ	118千kℓ	海外グループ	5百万㎡
総排水量		BOD排出量	
MRC	98百万㎡	MRC	38トン
国内グループ	8百万㎡	国内グループ	1トン
海外グループ	2百万㎡	海外グループ	9トン

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理規範に基づき行動します。

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは顧客の質を自指す商品サービスを提供します。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは人々の健康と安全を大切にします。

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理規範に基づき行動します。

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは顧客の質を自指す商品サービスを提供します。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは人々の健康と安全を大切にします。

環境負荷低減への取り組み

環境負荷物質の排出削減に努めるとともに、廃棄物削減やリサイクルの推進にも積極的に取り組んでいきます。

化学物質の排出削減

化学物質の管理

MRCグループは、第3期化学物質排出削減計画に基づき削減活動を実施しました。今後も環境負荷の低減に努めるべく2010年度を目標年度とした第4期化学物質排出削減計画を策定しました。

●第3期化学物質排出削減活動

【目標】

①総排出量

MRCグループ(MRC及び2003年度末までに移動したグループ会社)から排出されるMRC-PRTR調査対象物質*1(490物質)について、基準年度(2000年度)の70%にする。

②個別物質の排出量(物質毎に設定)

- i) 大気汚染防止法優先取り組み物質のうちMRCが取り扱っている5物質(MRCにおける大気への排出量)
- ii) MRCグループにおいて排出量の多い7物質の全排出量
- iii) MRCにおいて大気への排出量の多いVOC*2 21物質(MRCにおける大気への排出量)

【結果】

①総排出量の削減

削減活動を進めた結果、基準年度の3,061トンを38%削減し1,898トンにすることができました。

②個別物質の排出量の削減

21物質で目標を達成しましたが、無機シアン化合物等で目標を達成できませんでした。特に無機シアン化合物は、設備増設のため2006年度に比べ大幅な増加となりました。

●第4期化学物質排出削減活動

【目標】

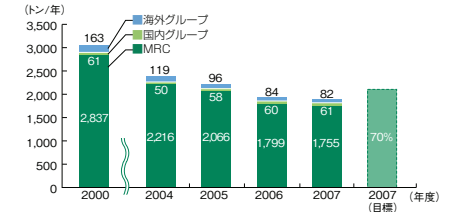
①総排出量の目標(目標年度:2010年度)

MRCグループ(MRC及び2003年度末までに移動したグループ会社)から排出されるMRC-PRTR調査対象物質(490物質)の総排出量について、2000年度を基準年度とし、2010年度までに基準年度の50%にする。2004年度以降移動したグループ会社については、排出されるMRC-PRTR調査対象物質(490物質)の総排出量を2007年度を基準年度とし、2010年度までに基準年度の75%にする。

②個別管理物質の排出量削減(目標年度:2010年度)

対象物質及び物質毎の目標値は現在策定中です。

■化学物質総排出量(第3期目標①)



■個別管理物質の削減(第3期目標②)

MRC事業所からの大気への排出量(目標i, iii) (トン/年)

物質名	年度					目標
	2000	2004	2005	2006	2007	
アクリロニトリル	88	44	37	21	21	24
塩化メチレン	52	41	35	50	40	37
1,3-ブタジエン	40	14	14	14	7	10
アセトアルデヒド	16	7	7	1	0	6
エチレンオキシド	13	1	1	1	1	1
アセトン	713	660	583	518	493	519
ジメチルアセトアミド	548	397	467	416	419	415
メタクリル酸メチル	195	125	93	84	75	81
N,N-ジメチルホルムアミド	143	72	42	34	33	85
スチレン	117	91	83	21	20	28
トルエン	97	29	30	25	23	24
メチルアルコール	40	39	38	38	31	42
プロピレン	39	39	47	41	47	47
イソプロピルアルコール	34	41	34	33	30	27
ターシャールブチルアルコール	30	30	29	30	30	30
ジメチルエーテル	28	28	25	27	28	28
テトラヒドロフラン	22	20	5	1	0	11
酢酸ビニル	20	13	13	12	9	13
メチルエチルケトン	14	1	1	0	1	0
アクリル酸ブチル	9	4	4	5	4	4
n-ヘキサン	9	13	14	20	15	13

MRCグループ個別管理物質の総排出量(目標ii)

物質名	年度					目標
	2000	2004	2005	2006	2007	
メタクリル酸メチル	332	226	174	136	121	174
N,N-ジメチルホルムアミド	168	74	44	35	35	89
スチレン	123	92	84	24	23	30
トルエン	117	33	33	28	25	28
アセトン	757	691	630	564	541	555
ジメチルアセトアミド	652	504	574	518	512	509
無機シアン化合物	40	41	32	21	37	28

調達品の化学物質管理

三菱レイヨングループは、原材料等の調達品に含まれる環境負荷物質や人の健康に害を与える恐れのある物質等を把握し管理するため、2005年度にグリーン調達調査を開始しました。2007年度は、三菱レイヨン及び国内グループ会社による調査を継続し、調達先より得られた回答書について順次精査し、必要の対応を実施しました。海外グループ会社についても2008年度には調査を開始し、化学物質管理の面で必要な措置を実施していきます。

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

4 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

5 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

4 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

5 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します



OUTPUT

化学物質	
MRC	1,755トン
国内グループ	131トン
海外グループ	568トン

CO ₂ 温室効果ガス (CO ₂ 換算)	
MRC	1,447千トン
国内グループ	35千トン
海外グループ	382千トン

SO _x SO _x 排出量	
MRC	556トン
国内グループ	82トン
海外グループ	9トン

COD COD排出量	
MRC	793トン
国内グループ	199トン
海外グループ	176トン

NO _x NO _x 排出量	
MRC	1,895トン
国内グループ	127トン
海外グループ	47トン

地球温暖化防止への取り組み

二酸化炭素の排出削減・省エネルギー活動を中心に、持続可能な社会の実現に向けて全力を尽くします。

京都議定書達成に向けて

私たちは地球温暖化防止のために、色々な活動を行っています。MRCグループから排出される温室効果ガスは、二酸化炭素(CO₂)がほとんどです。そのうち、8割がエネルギー起源のCO₂です。そこで私たちは、省エネルギーを中心に、燃料転換や省資源活動に工夫を凝らしながら、CO₂の排出削減に努めています。

私たちの主な活動

- 生産部門や事務所における省エネルギー活動
- 物流部門における省エネルギー活動、燃料転換
- エネルギー部門を中心とした燃料転換
- 省資源活動

【新しい目標】

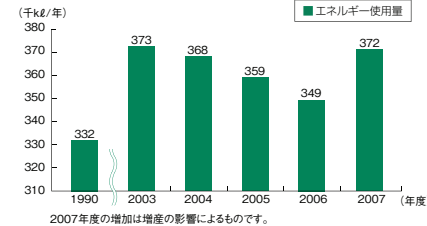
●エネルギー消費原単位

1990年度に比較して2008～2012年度の平均値で、10%削減から20%以上削減に目標をアップしました。

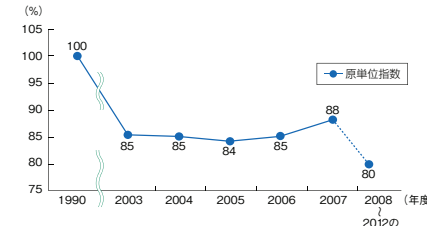
●エネルギー起源CO₂排出量

新たにエネルギー起源CO₂排出量も目標を設定しました。2008～2012年度までの平均排出量を、1990年度の値以下にするよう努力します。

■MRCエネルギー使用量(原油換算)



■MRCエネルギー消費原単位指数

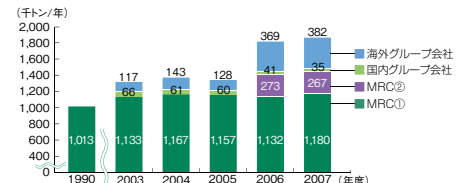


温室効果ガスの集計結果

省エネルギー活動や燃料転換、省資源に努めましたが、海外生産拠点や国内生産拠点の生産量が増加し、エネルギー起源のCO₂が増加しています。今後はより一層の省エネルギーとエネルギー転換に努めます。

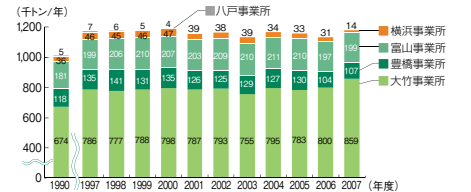
※非製造の本支店、グループ会社等を含む

■温室効果ガス排出量(CO₂換算)



注1 MRC①は4事業所のエネルギー、工場使用燃料由来のCO₂発生量
注2 MRC②は地球温暖化対策推進法、省エネルギー法改正に伴って追加した対象由来のCO₂排出量

■エネルギー起源CO₂排出量



■GHGインベントリ集計結果(CO₂換算)

2007年度内訳 (千トン/年)	CO ₂		その他5ガス
	エネルギー起源	非エネルギー起源	
MRC	1,208	236	2
国内グループ	35	0	0
海外グループ	298	84	0

省エネルギー活動

全員参加の小集団活動を進める中で、省エネルギー活動を通じ、エネルギー起源CO₂の排出量を削減しています。2007年度からは、自助努力に加えて社外のかも活かしながらエネルギーの見える化に重点を置いて活動しました。

Topics

蛍光灯の工夫(大竹事業所)

高効率反射板を使用することにより、蛍光灯1本でも必要照度の確保ができます。省エネルギーは、一人ひとりのやる気とちょっとしたアイデアが大切です。



環境関連の法令遵守状況

土壌汚染

2007年度は、三菱レイヨン及びグループ会社の使用していた土地で2件の軽微な汚染が見つかりました。1件は富山県にある三菱レイヨン事業所施設の借地、もう1件は埼玉県にある出資している会社の工場敷地です。いずれも、行政当局へ報告するとともに、その指導のもと適切な措置等を行いました。今後も適切な管理と対応を行います。

漏洩事故

2008年3月、中国のグループ会社において、貯槽の側溝のひび割れ部分から有機溶剤を含む水が地面に浸透する事故がありました。直ちに、側溝の修理をし、周辺への汚染の有無を確認し、環境保護局の指導に基づき適切に対処しました。

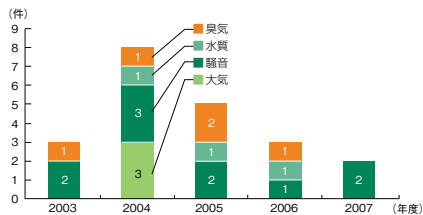
2007年6月と11月に三菱レイヨン富山事業所において、pH異常水と有機溶剤を含む水が公共水域に流出する事故がありました。いずれも環境への影響は見られませんでした。

今後も引き続き、排水経路や管理体制の見直しを含め、漏洩防止対策を強化していきます。

環境に関する苦情

2007年度、三菱レイヨン富山事業所及び岐阜県のグループ会社において、騒音に関する苦情をいただきました。当該事業所及びグループ会社では、直に対策を実施しました。三菱レイヨングループでは、今後も地域住民の方の生活に配慮した事業活動に努めていきます。

■MRCグループへの苦情



※1 MRC-PRTR調査対象物質

日本化学工業協会が会員企業に対し実施しているPRTR調査の対象となっている480物質(法による届出対象物質354物質を含む)にMRCからの排出量が多いジメチルセブチアミドを加えた物質群のこと。

廃棄物の削減・リサイクル

MRCでは、動力燃焼灰を除く外部埋立量について削減目標を定めています。2005年度以降、2010年度目標を前倒しで達成していることから、2007年度に2010年度目標の見直しを行いました。MRCにおける全廃棄物量は、2006年度に比べ増加していますが、リサイクルをより一層進めることで、埋立量は減少しました。

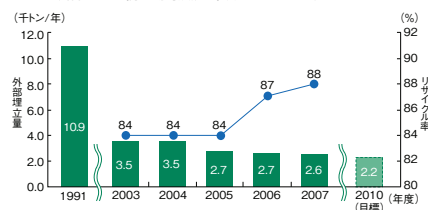
【新しい目標】

外部埋立量(除く動力燃焼灰)を2010年度までに1991年度比20%にする。

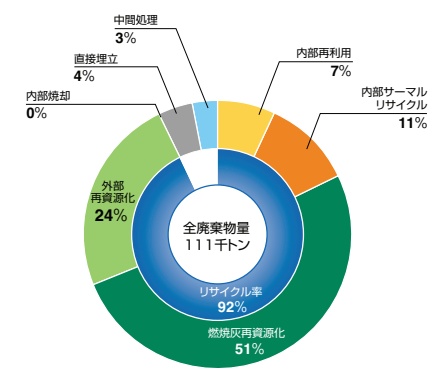
【結果】

1991年度比 24%
達成率: 対2010年度 95%

■MRC外部埋立量(除く動力燃焼灰)及びリサイクル率



■2007年度MRC全廃棄物の内訳



※2 VOC: Volatile Organic Compounds

揮発性有機化合物のことで、一般に常温で蒸気圧の高い有機化合物を意味する。大気汚染防止法には浮遊粒子状物質(SPM)及びVOCの工場・事業場からの排出規制及び自己規制が盛り込まれている。

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは環境の質を目標とする商品サービスを提供します

4 私たちは社会との共生に努めます

5 私たちは人々の健康と安全を大切にします

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは環境の質を目標とする商品サービスを提供します

4 私たちは社会との共生に努めます

5 私たちは人々の健康と安全を大切にします

環境データ・資料編

■2007年度 環境関連データの集計対象

	化学物質の管理	大気環境の保全	水環境の保全	産業廃棄物削減	地球温暖化防止	環境関連の法規制の遵守				ISO取得状況		
						MRC PRT対象物排出量	第3期削減対象物排出量	第3期削減対象物排出量	SOx排出量	NOx排出量	BOD排出量	COD排出量
② MRC	大竹事業所及び構内グループ会社	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	豊橋事業所及び構内グループ会社	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	富山事業所及び構内グループ会社	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	横浜事業所及び構内グループ会社	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③ 国内グループ	東京技術・情報センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MRCユニテック(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	(株)ダイヤテック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	東栄化成(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	MRC幸田(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ダイヤニトリックス(株)(MRC事業所内工場を除く)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トーセン(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	菱光サイジング(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日東石膏ボード(株)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	④ 海外グループ	Thai MMA Co., Ltd.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
惠州忠愛化成有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
蘇州三友利化工有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
江蘇新菱化工有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Diapolyacrylate Co., Ltd.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
南通麗陽化学有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
三菱麗陽高分子材料(南通)有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
菱技樹脂産品(上海)有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Dianal America, Inc.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
蘇州麗陽光学産品有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
寧波麗陽化学有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
P.T.Vonex Indonesia	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Grafil, Inc.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Newport Adhesives and Composites, Inc.	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
大連麗陽環境機器有限公司	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

■2007年度 事業所別環境関連データ

事業所名	大竹事業所	豊橋事業所	富山事業所	横浜事業所	東京技術・情報センター
所在地	広島県大竹市御幸町	愛知県豊橋市牛川通	富山県富山市海岸通	神奈川県横浜市鶴見区大馬町	神奈川県川崎市多摩区登戸
化学物質排出量(トン) (括弧内は物質数)	1,131 (80)	52 (41)	566 (33)	6 (18)	0 (0)
SOx排出量(トン)	461	46	49	0	0
NOx排出量(トン)	1369	184	341	1	0
COD排出量(トン)	779	11	—	3	0
BOD排出量(トン)	—	8	30	—	0
総排水量(百万m ³)	79	6	12	2	0
外部埋立量(除く動力燃焼灰)(トン)	1,181	35	1,321	38	—
エネルギー消費原単位(前年度比)	10.6%増加	12.1%削減	1.7%削減	17.6%増加	—
構内グループ会社	三菱レイヨン・エンジンアリング機、MREメンテ機、MRM大竹機、MRC情報システム機、ダイヤニトリックス機、UMG ABS機	MRC(バイン)機、MRCコンポジットプロダクツ機、ダイヤインジェクションモールド機、MRM山崎機、MRC情報システム機、三菱レイヨン・エンジンアリング機、MREメンテ機、MRM豊橋機、MRC情報システム機、デュボンMRCドライフィルム機	三菱レイヨン・エンジンアリング機、MREメンテ機、MRCポリサッカー機、MRM富山機、MRC情報システム機、ダイヤニトリックス機、MRCデュボン機	三菱レイヨン・エンジンアリング機、ダイヤニトリックス機	

物流における燃料転換

富山事業所では、2007年6月から固めて廃棄していた食堂廃油を、隣接のエコタウン産業団地にある富山BDF(株)に供給し、BDF(バイオディーゼル燃料)化した燃料を場内の物流作業用4トントラックで使用を開始しました。(BDF使用量:約5,000ℓ/年(400ℓ~500ℓ/月))
 今後は、他のトラックや場内フォークリフトでの活用も計画しています。



廃油から油を用いた燃料で走行

モーダルシフト

MRCは地球温暖化防止に物流面でも貢献するために、荷主としてモーダルシフト(トラック輸送から船舶やJR輸送への転換)や主要港から最寄港輸送へのシフト、輸送の大型化、積載効率の向上、最適生産拠点からの輸送、他社との製品融通(スワップ)などさまざまな視点の輸送効率化を通じてCO₂排出量の削減に取り組んできました。

2007年度の代表的な取り組みとしては、輸送会社の協力を得て、大竹事業所から中京・関東・東北方面への輸送を貸切りだけでなく、小口混載も含めてトラックからJRコンテナに切り替えたことが挙げられます。これによってCO₂排出量は142トン削減することができました。今後もこのような輸送会社とのパートナーシップに基づくモーダルシフトや最寄港輸送へのシフトなどの輸送効率化を全社的に推進し、一層のCO₂排出量の削減や省エネルギーに努めていきます。

■物流におけるCO₂排出量 (千トン/年)

年度	2003	2004	2005	2006	2007
CO ₂ 排出量	43	43	42	17	15

※2006年度より改正省エネルギー法に準拠し、算出方法を変更しました。



モーダルシフト(輸送をトラックからJRコンテナに切り替え)

省資源活動(ケミカルリサイクル)

アクリル樹脂は、熱によって原料であるMMA(メタクリル酸メチル)モノマーに分解する性質があり、ケミカルリサイクルが可能な樹脂です。富山事業所では1997年より、アクリル樹脂製造時に社内発生する廃材を高純度なMMAモノマーに戻すケミカルリサイクル工場を稼働させました。アクリル樹脂のケミカルリサイクルは、単に製品樹脂の一部をモノマーにリサイクルする事によって、循環型社会の形成に貢献するばかりでなく、原油から製品を製造した場合に比較して、使用するエネルギー量を小さくすることができます。

また、廃棄物量も減少することから、地球温暖化の原因であるCO₂の発生量も減少するなど、持続可能な社会の形成に貢献できる技術であるといえます。

今後は、市場で流通しているアクリル樹脂製品を資源循環させるために、より大規模なケミカルリサイクルシステムの構築に向けて、2007年度に大型設備を導入しました。今後は工業的規模での実証運転を行うなど、持続可能な社会の実現に向けて積極的に取り組んでいきます。



ケミカルリサイクルプラント

都市ガスの利用

豊橋事業所ではガスエンジン導入や都市ガス混焼ボイラーへの変更を進めています。

2008年度は、さらに都市ガス利用率を高め、約3,000トン/年のCO₂排出量削減も見込んでいます。今後も地球温暖化防止に努力していきます。



都市ガス混焼ボイラー

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは品質の向上を目指します

4 私たちは社会との共生に努めます

5 私たちは人びとのため、従業員を大切にします

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します

3 私たちは品質の向上を目指します

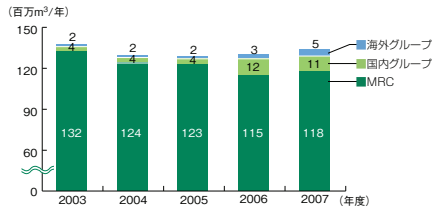
4 私たちは社会との共生に努めます

5 私たちは人びとのため、従業員を大切にします

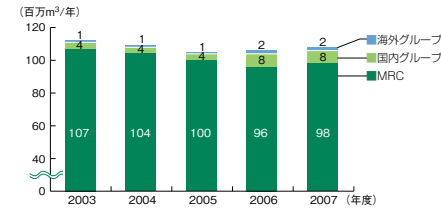
環境データ・資料編

主な環境負荷指数

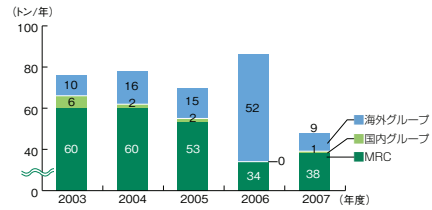
■水使用量



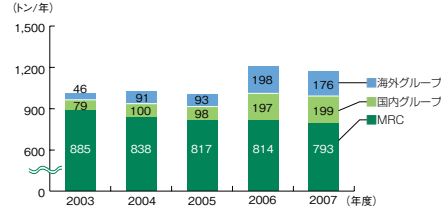
■総排水量



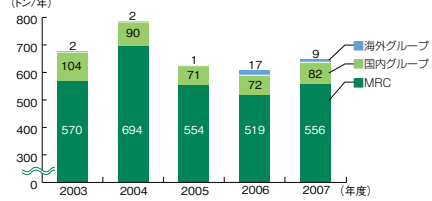
■BOD排出量



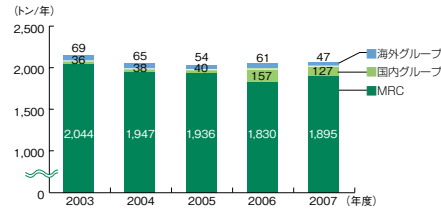
■COD排出量



■SOx排出量



■NOx排出量



グリーン購入

紙類	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
コピー用紙	99%	98%	99%	100%	98%
トイレットペーパー	100%	100%	100%	100%	100%
ノート	92%	94%	100%	100%	100%
文具類	75%	84%	91%	96%	100%
ファイル類	69%	100%	99%	99%	99%
機器類	100%	100%	100%	100%	100%
プリンター	100%	100%	100%	100%	100%
ファクシミリ/コピー機/複合機	100%	100%	100%	100%	100%
その他	100%	100%	99%	100%	100%
蛍光灯	33%	61%	45%	60%	50%

※集計対象はMRCです。

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

4 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

5 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

1 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

4 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

5 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

主な化学物質排出量と移動量

■2007年度 MRC-PRTR調査対象物質の排出量と移動量 (トン/年)

物質名	大気	水域	排出量合計	移動量
アセトン	493	21	514	23
ジメチルアセトアミド	419	94	512	160
ジメチルエーテル	28	180	208	0
メタクリル酸メチル	75	21	95	45
プロピレン	47	0	47	0
メチルアルコール	31	13	44	77
塩化メチレン	40	0	40	1
無機シアン化合物	36	0	36	0
N,N-ジメチルホルムアミド	33	2	35	154
ターシャリーブチルアルコール	30	2	31	0
その他	145	47	192	726
MRC合計 (内PRTR法対象)	1,376 (274)	380 (50)	1,755 (324)	1,185 (626)
国内グループ	113	18	131	656
海外グループ	506	62	568	281
合計	1,994	460	2,454	2,122

環境会計

■2007年度 環境会計集計結果 (百万円)

環境省ガイドライン集計項目		投資額	費用額	
環境保全コスト	(1)事業エリア内コスト	①公害防止コスト	497	1,946
		②地球環境保全コスト	192	131
		③資源循環コスト	62	1,771
	(2)上・下流コスト		0	-441
	(3)管理活動コスト		0	483
	(4)社会活動コスト		1	124
	(5)環境振興コスト		0	108
合計			752	4,123

環境省ガイドライン集計項目		投資額
経済効果	リサイクル事業収益	592
	エネルギー削減額	1,206
	廃棄物処理削減額	40
合計		1,837

環境会計の基本情報

環境会計全体

- 集計対象：環境保全を主目的として行った活動のコスト・効果
- 集計範囲：三菱レイヨン(株)
- 集計期間：2007年度

環境保全コスト

- 範囲/分類：「環境会計システムの確立に向けて(2000年)報告」(環境省)に準拠
経費には人件費を含む
設備投資の減価償却費は含まず
研究開発コストは含まず

経済効果

- 範囲/分類：環境保全活動の結果、2007年度に得られた効果で合理的に算定できるものに限定
- 事業収益：有価物売却、廃棄物引き取りなどによる実際の現金収入
- エネルギー削減額：生産活動における省エネルギー活動の結果として得られたエネルギー削減額
- 廃棄物削減額：廃棄物処理費などの対前年度減少額



3

私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します

私たちは、三菱レイヨングループの企業理念を実践し、お客様の視点に立った真に満足していただける、優れた商品と、細やかなサービスを提供いたします。

- 最高の商品をお届けするために
- お客様とのかかわり
- 環境にやさしい製品・技術

3 私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します

最高の商品をお届けするために

製品の安全性確保・品質向上に努めています。
また、CSR調達方針を制定し取引先との健全な取引関係の構築を推進します。

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理規範に基づき行動します

製品安全基本方針

三菱レイヨングループは、顧客の立場に立って、顧客の信頼と満足を得られる安全な製品を供給することを経営の基本方針とする。

(1995年制定)

2 私たちは安全確保への積極的な取り組みを推進します

安全な製品を供給するための具体的な行動規範

- 製品の安全性については、その時点での適用可能な最高レベルの安全技術、安全性評価技術をもって開発設計、製造、評価する。
- 製品の開発設計、製造に際しては、確保されるべき安全性を最優先する。
- 製品の出荷時点からライフサイクルの終了まで、安全性を保証できる製品を提供する。
- 製品の開発設計、製造、販売、使用、物流、廃棄の各段階において、製品安全に関する法律その他規則、制度及び業界の自主基準を遵守する。
- 輸出する製品については、対象国、地域の製品安全に関する法律その他規則を遵守する。

3 私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します

CSR調達 (右記参照)

私たち三菱レイヨングループは、公明正大で透明性のある取引慣行を基本方針として行動します。豊かな未来への貢献と持続可能な社会の実現のため、「CSR調達方針」を制定し、取引先のご協力を得ながら、健全な取引関係の構築を推進していきます。

4 私たちは社会との共生に努めます

5 私たちは人ひとりの従業員を大切にします

品質管理の基本方針

顧客の要求に合致し、顧客を満足させる製品を製造・提供するため、安全環境品質管理規則を定め、関係各部署が連携し品質管理の徹底を図り、品質の効果的且つ経済的な確保ならびに品質保証の達成に最善の努力をする。

(1984年制定)

品質管理委員会の設置

本社、事業所、製造工場の各ステージで品質管理に関する委員会を設置し、品質管理の徹底、また品質上の問題・対策の審議を通じさらなる品質向上に努める。

品質保証のための実施項目

- ① 原材料・部品等の管理
- ② 製品製作(図面・品質規格等の管理)
- ③ 製造工程・製造設備等の管理
- ④ 外注先の管理
- ⑤ 検査・試験及び計測・試験装置の管理
- ⑥ 包装・梱包・表示・入庫・保管・出荷の管理
- ⑦ 品質記録及び監査
- ⑧ 不適合品処理、苦情処理

CSR調達方針

1. 法令・社会規範の遵守
2. 購入製品の環境保全と安全性の確保
3. 人権尊重と労働環境の向上
4. パートナーシップの構築
5. お取引さまへの要望
 - ① 法令・社会規範の遵守
 - ② 環境保全と安全性が確保された製品・サービスの提供
 - ③ 人権尊重と労働環境の改善・向上の取り組み
 - ④ 適正な品質・価格、確実な納期、迅速な情報の提供

(2008年3月制定)

お客様とのかかわり

イベントや展示会を通じて、お客様と積極的にコミュニケーションを図っています。

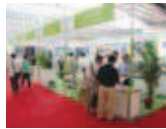
展示会への出展

展示会に積極的に参加することにより、多くのお客様との直接対話に努めています。

より満足いただける商品やサービスを目指すため、お客様から寄せられた声を製品安全や品質の向上に活かしています。

●JAPANフェア in 広州(上海瀟陽諮詢)

日本が国外で開催する展示会では過去最大の規模*1となる同展示会に出展しました。中国では環境問題への懸念が急速に高まっており、当社の水処理膜《ステラポアー》には多くの来場者が関心を示していました。



●China Composite Show(パイロフィル部)

「China Composite Show」は中国で最大規模の複合材料の展示会です。中国市場では、近年当社の炭素繊維製品の販売が急成長しています。期間中は多くの人にブースを訪問していただき、炭素繊維メーカーとしての三菱レイヨンを知っていただくことができました。



●第6回国際バイオEXPO 食品開発展2007(研究開発統括部)

繊維型DNAチップ《ジェノパール》を、「第6回国際バイオEXPO」及び「食品開発展2007」に出展しました。食品開発展では、食品アレルギー用の新しいDNAチップの利用方法を説明し、食品分野における《ジェノパール》の可能性を紹介しました。



●Chinaplas® 2007(メタプレン部)

中国上海で開催された「Chinaplas®2007」に、ポリマー添加剤《メタプレン》を出展しました。伸長著しい中国市場におけるニーズを新規製品開発に活かすため、今後は自動車用樹脂材料向けの添加剤の可能性を紹介していきます。



- 1 私たちは安全・衛生を徹底し、企業倫理基準に基づき行動します。
- 2 私たちは安全・健康への積極的な取り組みを推進します。
- 3 私たちは最高の質を目指す商品・サービスを提供します。
- 4 私たちは社会との共生に努めます。
- 5 私たちは人々の心の豊かさを大切にします。

環境にやさしい製品・技術

三菱レイヨングループは環境に配慮した製品・技術で地球環境に貢献します。

水処理技術

三菱レイヨングループは、MF膜(精密ろ過膜)を用いた浄水・中水用及び下排水処理システム事業を展開しています。

世界的な水不足が懸念されている昨今、水循環の高度化は世界的な課題となっており、膜を使用した下排水処理、海水淡水化に大きな期待が寄せられています。当社はポリエチレン、ポリフッ化ビニリデンの2素材の中空糸膜技術を保有し、中空糸壁面に形成された微

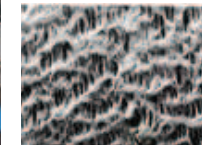
細な穴による、高効率なる過性を特徴としています。この中空糸膜フィルター《ステラポアー》は、工業用水などの各種水処理の他、下排水処理の活性汚泥の固液分離等(MBR)で活用されています。

さらに、この技術を家庭用浄水器《クリンスイ》シリーズにも活かし、蛇口直結型からピッチャー型まで幅広く展開しています。

「安心な素材で、おいしい水」。当社グループは、それを実現します。



中空糸膜フィルター(ステラポアー)



中空糸膜表面の拡大図



家庭用浄水器(クリンスイ)

炭素繊維

低炭素社会の実現に向けて、一つの大きな課題であるのが軽量化・低燃費製品の開発です。

そのための有力素材として注目されているのが、「鉄よりも強く、アルミよりも軽い」といわれる炭素繊維です。樹脂と組み合わせた炭素繊維・複合材料は車体の素材として注目されています。その他、大型風力発電翼、高速道路補強材、CNG(圧縮天然ガス)タンクなど、産業用途としても幅広く使用されています。



炭素繊維のクロス



大型風力発電設備(イメージ写真)

リサイクル技術

当社は、アクリル樹脂のトップメーカーとして、自社内のみならず、市場から排出される廃アクリル樹脂のケミカルリサイクルを実現する工業化技術の確立に取り組んでいます。

>> 詳細 P.28

Topics

クリンスイ内覧会(MRC・ホームプロダクツ)

多くの方に愛用していただいている浄水器《クリンスイ》。その新商品を紹介する内覧会を毎年東京で開催しています。



「Cleansui 2008」の会場



クリンスイでエコ!

MRC・ホームプロダクツ
広告宣伝グループ
多屋 光浩

2007年度は、エコロジーや環境への配慮をテーマに訴求しました。ペットボトルの水を買うのに比べ、《クリンスイ》を使うことでゴミが圧倒的に削減できます。環境に配慮した浄水器《クリンスイ》で、安心でおいしい水をどうぞ。



ペットボトル使用時とゴミの量を比較した展示

*1 JAPANフェア in 広州
日本貿易振興機構(JETRO)が過去に参加・運営した海外展示会の中で最大規模の展示会。



4

私たちは社会との共生に努めます

私たちは、事業活動に係わる顧客・消費者、地域社会、株主・投資家、取引先などのステークホルダーとの関係を重視し、友好的且つ適正な関係の維持、発展に努めます。

- 地域社会とのかかわり
- 株主・投資家とのかかわり

4 私たちは社会との共生に努めます

地域社会とのかかわり

地域社会に根ざした活動を積極的に推進し、その発展に寄与します。

地域とのコミュニケーション

地域との対話

国内外各地の事業所やグループ会社では、自治体や周辺の地域住民の方々と工場見学などを通して交流を図り、事業の内容や環境・安全について理解していただく機会を多く設けています。

Topics

岩国・大竹地区のRC地域対話に参加(大竹事業所)

日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)主催の地域対話に参加し、岩国・大竹地区加盟の化学メーカーと、化学工場の事故対策や地球温暖化対策をテーマとした意見交換を行いました。



従業員家族の工場見学会(富山事業所)

三菱レイヨンについてより理解を深めてもらい、親しみをもってもらうために、従業員とその家族を対象とした工場見学会を労使共催で実施しました。見学やミニ実験を通して、家族同士のコミュニケーションの場となりました。



「技ありの逸品展示・交流会」に出展(北陸出張所)

繊維産地である福井県の企業が「技ありの逸品」を持ち寄って相互理解を深める展示会に出展しました。当社は「動く繊維」《ベントクール》などを紹介し、地元企業と活発な意見交換を行いました。

スポーツを通じた交流

各事業所・グループ会社では、グラウンド、体育館などの施設を開放し、多くの市民が活用しています。また、スポーツ大会の運営を通して、地域住民との交流や青少年の育成に努めています。

Topics

ソフトボール大会の運営(東栄化成・小野工場)

小野町第二工業団地に勤務する人々の親睦を目的として、年に1回ソフトボール大会を開催しています。2007年は社外からも100名以上の参加がありました。

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理基準に基づき行動します。

2 私たちは安全・環境への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは最高の品質を目指し、商品サービスを提供します。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは人々のための従業員を大切にします。

清掃活動

きれいなまちづくりのために、周辺地域の清掃活動を定期的に行っています。社内の活動だけでなく、自治体やNPO主催の清掃活動へも積極的に参加し、より地域に根ざした形の環境美化活動に取り組んでいます。

Topics

「朝倉川530大会」に参加(豊橋事業所)

NPO法人朝倉川育水フォーラムが主催する清掃活動に参加し、豊橋北部を横切る朝倉川の美化に取り組みました。



海外グループ会社の取り組み

海外グループ会社においても、その国の法律や文化、慣習をよく理解し、尊重しながら地域社会との共生に努め、安全・防災活動やボランティア活動を行っています。

Topics

小・中学生に化学企業での仕事を紹介する授業を実施(米国・ダイヤモンド)

地元商工会やボランティア団体からの依頼を受けて、近隣の小・中学校で「化学企業での仕事」などのテーマの授業を行っています。子どもたちが仕事や将来を考える良い機会となっているため、今後も継続して行う予定です。



子どもたちから届いたお礼の手紙

南通経済技術開発区の防災・安全活動に参加(中国・南通麗陽化学)

工場を安全に運営するためには、近隣企業との連携も不可欠です。そのため、開発区内の企業で行う防災訓練や安全活動に参加し、事故事例や消防消火技術に関する情報共有をしています。

参加事例 消防隊設備及び消防技術発表参観、安全生産月展示会、総合防災訓練見学、119消防競技大会参加など

株主・投資家とのかかわり

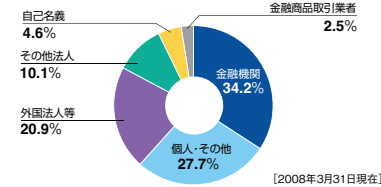
株主や投資家とのインベスターリレーションズ(IR)を重視し、適時適切な情報開示に努めています。

株主の状況と構成

三菱レイヨンは2008年2月、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を目的とした自己株式の取得を取締役会で決議し、同年2月中旬から3月中旬を買付期間として市場買付けを行いました。その結果、2月29日をもって市場買付けを終了し、取得総額9,999,912千円、株数26,980千株の自己株式を取得しました。

その結果、2008年3月末における当社発行済株式総数599,997,820株の株主数は約7.9万名でした。株所有者の構成としては、金融機関が34.2%、個人・その他が27.7%、外国法人等が20.9%、その他法人が10.1%、さらに自己名義株式4.6%、金融商品取引業者2.5%となりました。

■三菱レイヨン株式の所有者別分布



配当・株主通信

三菱レイヨンは、株主への利益還元を経営の最重要政策の一つと位置づけています。利益の還元は株主への配当や、利益の内部留保によるものです。当社は配当に関して、継続的かつ安定的な実施を基本的な考え方としており、将来の事業展開・拡大に備えるための内部留保の充実等を総合的に勘案の上、実施しています。

情報開示アクション

三菱レイヨングループは企業倫理憲章において「適切な情報の開示と秘密情報・個人情報の管理」を原則の一つとして掲げています。経営上の重要な事項についての開示基準等については、2008年4月に「企業情報開示規則」を制定し、情報の開示管理を行っています。

株主通信「事業のご報告」、アナニュアルレポート、決算補足資料などの適時開示や当社ホームページへの情報の充実など、よりわかりやすい内容へ向けた改善に努めています。

また、証券アナリストや機関投資家、個人投資家への事業環境の説明や製品紹介などを目的とした説明会の開催や企業紹介イベントへの参加を通じ、積極的な情報開示アクションを行っています。

個人投資家への対応

個人株主が多数出席する株主総会では、6月28日開催の第82期定時株主総会より、会場に隣接するスペースに当社グループの主要製品の展示を開始しました。伸長する事業である炭素繊維や水処理用濾過膜などの製品を見ながら、株主の皆様からは熱心な質問や意見が寄せられました。また、8月開催の「日経IRフェア」(日本経済新聞社主催)や12月開催の「技術を知る」IRフォーラム(日興アイ・アール(株)主催)に出展し、当社の事業や製品について関心を高めていただきました。



日本経済新聞社主催「日経IRフェア」

機関投資家への対応

中間決算及び本決算の内容を説明する決算説明会や国内外の事業所見学会を主催し、証券アナリストや機関投資家の皆様により一層の理解を深めていただけるよう積極的なIR活動を行っています。また7月には、欧州で開催された企業説明会(三菱UFJ証券主催)に取締役が参加するとともに、欧州各地の機関投資家を訪問し当社の事業状況を説明しました。



三菱UFJ証券主催「Japan Equity Conference 2007 London」

さらに、国内でも証券会社主催のカンファレンスに参加し、国内外の機関投資家から活発に質問をいただきました。

今後のIR活動

従来から実施してきた種々のIR活動の内容を踏まえ、さらに当社グループへの理解を深めてもらうため、株主や投資家との対話を重視した活動に取り組みます。株主通信「事業のご報告」やアナニュアルレポートなど、よりわかりやすいIR情報開示ツールの作成や、個人投資家を対象とした小規模の企業説明会を定期的を実施するなど、新たな活動にも取り組みます。

今後も株主や投資家をはじめ全てのステークホルダーに対し、よりわかりやすく、適時適切に公平な情報の開示を心がけ、積極的なIR活動に努めていきます。

次世代育成活動

わくわく! かがく教室

子どもたちの「なぜ?」「どうして?」は、ものづくりの原点です。私たちの製品や身の回りのものを使って、科学の不思議さやおもしろさを伝えたいとの思いから、小・中学校への出張授業を行っています。2007年の夏休みには「夢・化学-21」委員会との共催で、広島市子ども文化科学館にて親子参加のかがく教室を開催しました。



広島市子ども文化科学館

港区内小学校での出張授業

Voice

未来の科学者に期待



情報デバイス開発センター(大竹駐在)
塚本 好宏

地元中学校から「研究に携わる人たちからの授業を行ってほしい」との依頼があり、かがく教室を年に1回開催しています。授業をするたびに、子どもたちのもの見方がとても素直なことに感動します。予想外の回答や質問が出ることも面白く感じています。そして、子どもたちが楽しみながら実験している姿から、何事も興味を持ってやるのが大事なのだと教えられています。授業を受けた生徒のなから、未来の科学者が誕生することを期待しています。

トリアセート繊維(ソアロン)デザインコンテスト (三菱レイヨン・テキスタイル) (ダイヤ・ファッション・プランニング)

ファッション業界の将来を担う学生(文化学園)を対象としたデザインコンテストを実施しました。生地には地球環境にやさしく、希少価値の高いトリアセート繊維(ソアロン)を使用することとし、素材の提供を行いました。また両社は、技術担当者、デザイナー等を専門学校やビジネススクールの講師として派遣しています。



文化・芸術活動への取り組み

舞台芸術に《アクリライト》を提供

アクリル樹脂板(アクリライト)は、丈夫で透明度も高く、自由に加工することができます。そのユニークな特長は、芸術分野でも注目されています。2007年には、プロフェッショナル・ダンスカンパニー「Noism」の舞台芸術作品の素材として、《アクリライト》を提供しました。板には特殊な鏡面処理が施され、照明の強さによって板の向こう側が見えたり鏡のようにダンサーを映すなど、アクリル樹脂板の魅力を十分に活かした美術作品が完成しました。



車体素材に炭素繊維を提供

・全日本学生フォーミュラ大会 ・エコカーコンテスト

“軽くて強い”炭素繊維は、大幅な軽量化を実現できる素材として注目されています。

「全日本学生フォーミュラ大会」は学生がチームを組んで車体の企画・設計・製作を行い、ものづくりの総合力を競う大会です。当社ではこの大会に参加する豊橋技術科学大学・自動車研究部に、車体やパーツの素材として炭素繊維を提供しています。

また、毎年豊橋市で開催されている「エコテクノレース」は、バッテリーや燃料電池で走るエコカーの大会で、持続可能な社会の実現を考える場となっています。この大会の参加団体にも、車体素材として炭素繊維を提供しました。



全日本学生フォーミュラ大会

エコカーコンテスト

1 私たちは社会との共生に努めます。企業倫理憲章に基づき行動します。

2 私たちは安全・健康への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは環境の質を自己責任で向上させ、社会に還元します。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは人々の心をつなぐために努めます。

1 私たちは社会との共生に努めます。企業倫理憲章に基づき行動します。

2 私たちは安全・健康への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは環境の質を自己責任で向上させ、社会に還元します。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは人々の心をつなぐために努めます。

従業員とのつながり

「企業の持続的発展」と「従業員一人ひとりの幸福」の双方を実現するため、多様な能力を尊重し、一人ひとりが高い意欲を持って、生き生きと輝ける職場づくりを目指します。

人材育成

企業の成長力・競争力の源泉は人と組織の力であるという考えのもと、三菱レイヨングループでは、人材確保と育成・活用を経営の重要課題と位置づけ、重点的に取り組んでいます。

各種研修制度

日常業務の遂行を通じた能力開発(OJT)や各種研修制度、自己啓発支援等と組み合わせ、社員の自発的な能力開発を支援しています。新入社員研修や役職に応じた各研修では、人権啓発、法令遵守、企業倫理の徹底、安全環境管理の推進を共通テーマとして採り上げています。また海外への事業展開が進む中、文化や制度を理解してマネジメントできる人材の育成を強化していきます。

●自己開発研修

主に若手総合職社員向けに、キャリア開発演習を行います。三菱レイヨングループ社員としての成長イメージを掴み、中長期的視点での能力開発に努めることを狙いとしたキャリア開発演習を行っています。

●新任管理職研修

新たに管理職に昇格した社員向けに、コミュニケーションやリーダーシップのあり方をはじめとするマネジメント力の強化を行い、より円滑かつ効果的な組織運営を目指します。また技術系の新任管理職には、製造現場のリーダーとして活躍するための安全・生産管理に特化した研修があります。

●ライフプラン研修

再雇用制度等、定年以降も働き続ける選択肢が増えた中、

60才以降のライフデザインを視野に入れたキャリア開発や経済生活基盤への認識を高めるための支援も行っています。満50才に到達した管理職全員を対象に行う「ライフプラン研修」は、キャリア開発を中心とし、自己理解を深め今後の行動目標を明確にすることを目的としています。また「セカンドキャリア支援セミナー」は、満57才の管理職全員が対象の、経済生活設計を中心としたセミナーです。

目標管理に基づく人事評価システム“COM-PAS”

三菱レイヨングループがUS*1企業として成長し続けるためには、グループ構成員のベクトルを揃え、それらを強固に結束させることが何よりも重要と考えています。そこで、組織内のコミュニケーションを活発にして、各社員が組織目標を共有、目標に向け果敢にチャレンジし、その実現に成果をあげた人を適切に評価する人事考課制度を導入しました。愛称を「COM-PAS」(Communication, Plan, Action & Success)とします。この制度をさらに実効あるものにするため、毎年管理職を中心に考課者研修を行い、評価の公平性、納得性、透明性を高めるよう努めています。目標設定から考課に至る、目標管理を軸としたこの人材マネジメントプロセスにより、社員個々人の能力を最大限に引き出し、ひいてはこれがグループ全体の組織力発揮につながると思っています。



人事考課者研修
(2007年度までに延べ465人が受講している)

■三菱レイヨングループ人材育成施策

役職	役割変化	研修			
		経営力・組織力の強化	階層別研修	目的別・機能別研修	技術研修
企業の持続的競争力の根幹は活力ある人の結束					
(役員)	役員	グループ会社代表者研修		セカンドキャリア支援セミナー	
事業部長	マネジメント	経営幹部育成研修		ライフプラン研修	
研究所長	高度エキスパート	COM-PAS考課者研修	新任管理職研修	技術系新任管理職研修	
工場長	グループリーダー		事業所新任管理職研修	専業企画力強化研修	
グループリーダー課長				知財研修	
課長代理	業務推進	専門能力拡充・実践力強化のための部門内ローテーション中心(含、国内外グループ会社)	自己開発研修	技術講座(WEBラーニング)	
中堅			総合職転換者研修		
新人			新入社員研修 /フォロー研修		



5

私たちは一人ひとりの従業員を大切にします

私たちは、従業員はかけがえのない財産であるとの認識のもと、三菱レイヨングループで働く全ての人々の人権を尊重し、安全な職場環境を構築し、能力の開発・活用のための機会を提供します。

■ 従業員とのつながり

1 私たちは法令遵守を徹底し、企業倫理基準に基づき行動します。

2 私たちは安全・健康への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは顧客の質を自覚し、商品・サービスを提供します。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします。

従業員とのつながり

働きやすい職場のために

人権保護

三菱レイオングループは、「企業倫理憲章」第4項において、「私たちは、あらゆる企業活動において、個人の人格、個性を尊重すると共に、従業員の人格・個性を尊重し、安全で働きやすい環境を確保します」と掲げ、この精神に則り、人権が尊重される公正な職場環境づくりに努めています。また各種社員研修において人権啓発の講座を設け、人権尊重の意識醸成に取り組んでいます。

セクシャルハラスメントについても、就業規則の中でセクハラを許さない、という姿勢を明確にし、社内報や社員研修において啓発を行っています。また本支店・各事業所に相談窓口を設ける他、対策委員会を設置し、万が一発生した場合でも、速やかに対応できる体制づくりを行っています。

障がい者雇用

障がい者の雇用率については、2008年3月現在1.7%となっています。企業の社会的責任の一環として、今後とも法定1.8%の達成、さらなる向上を目指して求人活動を行うとともに、職場の開発に全体的に努力していきます。

再雇用制度

三菱レイオンでは2001年度より再雇用制度を開始し、改正高齢者雇用安定法(2006年改正)の主旨に基づき再雇用を行っています。定年後も当社グループでの継続雇用を希望し、会社が提示する条件に同意が得られる社員は、管理職も含め、原則として全員再雇用の対象となります。定年以降も現役時代と同様に、高い意欲をもって働き続けられるよう、働き方に応じた処遇制度を設けています。

私傷病欠労・退職からの復職・復帰支援

心身の病気や怪我は、生活習慣の改善や日ごろのケアにより未然に防ぐことが大切ですが、もし病気や怪我になった場合は、必要な期間、療養に専念し、スムーズな職場復帰ができる環境が必要です。そこで当社は2008年4月より、心身の病気による休業からのスムーズな職場復帰を支援するためのプログラムや制度を新設しました。療養中は当社産業医を交えたフォローを行い、本人からの復職申請後に個別に職場復帰プログラムを作成します。これに基づき「ウォームアップ試験会社」「ウォームアップ短時間勤務」の

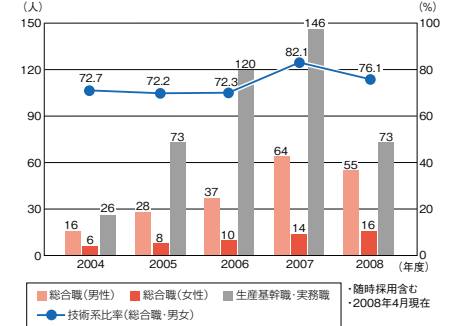
2段階のステップを踏むことが可能です。休業者が必要な準備期間を経て、段階的に完全復帰できるよう支援する新しい取り組みです。

採用

新卒及び随時採用の基本方針

社会の枠組みとともに、企業を取り巻く環境は日々変化しています。その環境を生き抜き、当社グループが目指す姿を実現する可能性を秘めた多様な人材を継続的に採用しています。採用手段としては、新卒者の定期採用はもちろんのこと、即戦力の確保を目指した随時採用にも力を入れています。

三菱レイオンにおける採用人数推移



インターンシップ

三菱レイオンでは、主に大学、大学院、高等専門学校の学生を対象に、約2週間のインターンシップを行っています。各事業所において毎年10名~20名を受け入れ、製造、研究の現場で実際の業務に触れながら、自身のキャリアプランについて考える機会を提供しています。また外国人留学生にも門戸を開いています。

ワーク・ライフ・バランス

仕事と家庭の両立支援施策

仕事と家庭の両立など従業員が働きやすい環境をつくることで企業の活力を向上させ、社会への貢献を果たしていくことを目指し、2005年度~2007年度までの3カ年計画として、次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定しました。取り組みの内容は次の通りです。

●育児休業取得状況の向上

[]内は当初目標

- 女性の取得率平均96% [70%以上]
- 男性の取得実績 計4名 [1名以上]

●両立支援関連制度を拡充し、制度利用の促進を図る

- 育児休業制度の延長(子が1才到達後の4月末または1才6ヶ月までのいずれか長い方)
- 育児短時間勤務制度の拡大(小学校就学の始期に達するまで利用可能)
- ハートフル休暇^{※2}の取得要件の拡大(小学校就学前の子の育児への利用可能)
- 両立支援策に関する従業員説明会を実施
2008年1月~3月にかけて、本支店及び各事業所で順次開催しました。実施回数は延べ37回、出席者数は合計2,100名以上に上りました。

●所定労働時間の削減、年次有給休暇取得促進を図る

上記の行動計画達成状況に対し、次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」として、2008年5月東京労働局の認定を受け、認定マーク(愛称:くるみん)を取得しました。



次世代認定マーク「くるみん」

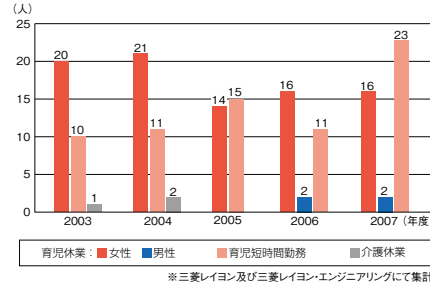
この他にも、育児休業者のための支援サイトとの契約、育児ホームヘルパー料補助制度(福祉会)、「ウェルカムバック」制度等を設けました。また介護休業及び介護のための短時間勤務制度は、対象家族1人につき、併せて1年を限度に利用することができます。

このような制度面の拡充に加えさまざまな生き方や価値観をお互いが尊重し、理解し合う企業風土を育むことで、引き続きワーク・ライフ・バランスの実現を推進していきます。



ワーク・ライフ・バランス推進関連の配布冊子

■制度利用者数



ウェルカムバック制度

自己都合で三菱レイオンを退職した社員が、再び当社で活躍できるよう、2008年1月より退職者復職登録制度を開始しました。出産や介護といった退職理由に限らず登録可能な点が特徴で、さまざまなライフステージの状況変化に適應した新しい退職者復職制度と言えます。2008年4月現在、4名の登録者がいます。

Voice

三菱レイオン初の男性の育児休業取得者



人事部
人事労務グループ
岡村 忠弘

制度を利用して、率直に良かったと感じています。休暇中は、赤ん坊はもちろん、上の子2人ともゆっくり向き合うことができました。会社や組合が両立支援制度について積極的にPRしていますが、社員の奥さんの中には、男性が育児休業を取れることを知らない人もまだ多いのではないかと思います。これから出産予定のある方は一家庭内でお話してみたいかがでしょうか?多くの人に、育児を楽しんで欲しいですね。

1 私たちは安全衛生を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します。

2 私たちは安全衛生への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは商品サービスの向上を目指し、商品サービスの充実を図ります。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします。

1 私たちは安全衛生を徹底し、企業倫理憲章に基づき行動します。

2 私たちは安全衛生への積極的な取り組みを推進します。

3 私たちは商品サービスの向上を目指し、商品サービスの充実を図ります。

4 私たちは社会との共生に努めます。

5 私たちは一人ひとりの従業員を大切にします。

※1 US 独自性と優位性を併せ持った事業 Uniqueness Specialties を意味する。

※2 ハートフル休暇 失効した前々年度発生分の年次有給休暇を、年5日を限度に最大40日まで積立できる当社制度。本人の私傷病療養の他、家族の看護、地域・社会貢献活動等に利用可能。

GRIガイドライン対照表

項目	指標	掲載ページ
1	戦略及び分析	
1.1	トップメッセージ	3,4
1.2	主要な影響、リスク及び機会の説明	7
2	組織のプロフィール	
2.1	組織の名称	7
2.2	主要なブランド、製品及び/またはサービス	5,6
2.3	組織の経営構造	7,8
2.4	本社の所在地	7,8
2.5	事業展開している国	7,8,11
2.6	所有形態の性質と法的形式	7
2.7	参入市場	7,8
2.8	組織規模	7
2.9	報告期間中の重大な変更	39
3	報告要素	
【報告書のプロフィール】		
3.1	記載情報の報告期間	2
3.2	前回の報告書の発行日	2
3.3	報告サイクル	2
3.4	報告書またはその内容に関する質問の窓口	2,裏表紙
【報告書の報告範囲及び報告対象組織】		
3.5	内容向上協定のプロセス	2,10
3.6	報告書の報告対象範囲	2
3.7	報告対象範囲または報告対象組織に関する具体的な制限事項	2,29
3.8	組織間の比較可能性に影響を与える可能性がある報告の理由	29
3.9	報告データの測定、計算の基盤	2,31
【GRI内容率引】		
3.12	標準開示の場所を示す表	44
【保証】		
3.13	第三者保証添付に関する方針及び業務慣行	45
4	ガバナンス、コミットメント及び参画	
【ガバナンス】		
4.1	最高統治機関の下にある委員会を含む、統治構造	15
4.2	最高統治機関の長の役割	15
4.3	最高統治機関の社外メンバー	15
4.4	株主及び従業員の最高統治機関に対する提案	15
4.5	最高統治機関メンバーの報酬	15
4.6	最高統治機関が利害対立を確保するプロセス	15
4.7	最高統治機関のメンバーに求められる適正及び専門性の決定プロセス	15
4.8	経済、社会、環境に関する声明、行動規範及び原則	9,16
4.9	経済、社会、環境を最高統治機関が監督する手順	9,15
4.10	最高統治機関の経済、社会、環境のパフォーマンスを評価するプロセス	15
【外部のイニシアティブへのコミットメント】		
4.11	予防的アプローチ、予防原則への取り組み	17
【ステークホルダー参画】		
4.14	ステークホルダーグループのリスト	10

三菱レイヨン
「CSR報告書2008」を読んで

神戸大学大学院
経営学研究科教授
國部 克彦

CSRの中心

三菱レイヨンのCSRの特徴は、社長メッセージにもあるように、「人」を中心とした経営と、高い目標を定めた環境対策にあります。本報告書もこの2つのテーマを中心に編集され、同社のCSRへの決意と行動が反映されています。

「人」重視のCSR

人を活かす経営に関して、移動社長室による工場従業員との対話の推進、各種研修制度、人事考課制度“COM-PAS”、ウェルカムバック制度などの取り組みも多数記述されています。また、特集に記述されている各職制の一斉巡回も、移動社長室と同様、各職制が従業員と対話を図る有意義な取り組みとして高く評価できます。今後は、社員とダイアログなどによって、社員の声が外部にも届くような工夫も有効と考えます。

充実した環境報告

環境については、CO₂の削減に関して原単位による指標だけではなく、総量削減についての目標も示されています。これは低炭素社会への移行が必須の状況を反映したもので、高く評価できます。今後は、超長期的ビジョンを作りたいと思います。また、これまで自社で発生するアクリル廃材を高純度の材料に戻すケミカルリサイクルを推進されてきましたが、2007年度には市場で流通する他社のアクリル製品もケミカルリサイクルできる大型設備を導入して実証試験を行なうといった意欲的な取り組みも注目に値します。環境・安全・品質に関する種々の監査の種類と実施結果までもしっかりと開示され、さらに、ネガティブ情報の開示も含め環境面の記述が充実していることは化学メーカーの報告書として高く評価できます。

本業とCSR活動の連携へ

このように三菱レイヨンのCSR活動は、経営トップの強い意志のもとで特徴ある取り組みが進められていますが、今後は、本業と連携させてどのように体系化するかが重要と考えます。そのためには環境に関しては、環境対応目標と事業目標の連携を、廃棄物削減による収益向上や環境配慮製品の売上拡大なども含めて、どのように展開するかが課題になるでしょう。従業員対応を含む社会活動面では、定性的でも良いので活動の目標を立案し、PDCAのマネジメントサイクルを確立することが次のステップとして重要と思われる。

ステークホルダーの声を反映を

CSRは社会に対する責任ですから、ステークホルダーの声を積極的に反映させる努力も今後は必要になると思います。そのためには、CSR報告書を媒介として、様々な関係者とダイアログを実施されると、これまで気が付かなかった活動すべき領域が見えてくるはずです。CSR報告書は社会に開かれた窓なので、双方向コミュニケーションの起点となるよう、今後の一層の充実を期待しています。

【略歴】

大阪市立大学大学院経営学研究科修了。博士(経営学)。2001年より現職。2003年研究成果活用企業「環境管理会計研究所」創設。経済産業省「マテリアルフローコスト会計開発普及事業委員会」委員長。環境省「環境報告書ガイドライン検討委員会」委員等を歴任。著書に「環境経営・会計」(有斐閣)などがある。

第三者意見をいただいて



取締役兼専務執行役員
CSR委員会担当
田尻 象運

三菱レイヨングループは、環境・安全への取り組みをステークホルダーの皆様へ開示すべく、1998年度より「環境・安全活動報告書」を発行してきました。その後、社会とのかわりという視点からも当社の取り組みを紹介した「環境・社会報告書」を経て、今年度より「CSR報告書」の第一号を発行する運びとなりました。

当社は、2007年度にCSR委員会の創設、CSR憲章の制定など、CSR活動推進体制を構築しましたが、今後は國部先生からご意見をいただいたとおり、現在行っている活動を本業と連携させて具体的な目標を定め、どのように推進していくのか、どう体系化させるのかが重要だと認識しております。

CSR活動への認識をより高め、部署や事業所を超えて、グループ会社としての体系的活動に発展させていきます。

また、先生からは「人」を重視したCSR活動を行っているという点で評価をいただきました。今後も従業員との対話を重視した活動を継続し、新たな目標の立案なども含めて、社会的な側面のマネジメントサイクルも視野に入れていきます。さらに従業員だけでなく、ステークホルダー・ダイアログなど、さまざまなステークホルダーとの対話の機会を設け、双方向コミュニケーションを図りながら、CSR活動の推進にグループ一体となって尽力してまいります。

編集後記

この「三菱レイヨングループCSR報告書2008」は、CSR委員会事務局を中心に、グループ内のさまざまな部署・グループ会社の協力のもと、発行の運びとなりました。

当社グループの製品は主に素材であるため、社外の方からは「何をやっている会社なのかイメージしづらい」とのご意見をよくいただきます。本報告書では、身近な生活シーンで活躍する当社グループ製品をイラストで紹介し、全体的に写真を多く用いるなど、多くの方にと

って読みやすく、親しみやすいものになるよう心掛けました。環境関連の報告にも、従来よりもページを割いて報告しました。また、各章は2007年度に制定したCSR憲章の項目毎に構成しています。

今後もステークホルダーの声に耳を傾け、社会から求められている情報をわかりやすく伝える報告書を目指してまいります。読者の皆様からの忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

(CSR委員会事務局)



〒108-8506 東京都港区港南一丁目6番41号(品川クリスタルスクエア)
三菱レイヨン株式会社

広報・IR室
TEL 03-5495-3100 FAX 03-5495-3184
<http://www.mrc.co.jp>



アロマフリー型大豆油インキを使用しています。



水をつかわない
環境にやさしい
印刷です。



ミックス品
FSC認証製品は皆無難に
森林からの責任ある調達です。
www.fsc.org Cert No. COC-001156
© 1996 Forest Stewardship Council

